



高齢者や介護保険制度の現状等

1 高齢者や介護保険制度の概況

(1) 介護保険制度の実施状況

介護保険制度の制度創設以来23年が経過し、本市では65歳以上被保険者数が約1.8倍に増加するなかで、サービス利用者数は約3.6倍に増加しています。

ア 65歳以上被保険者の増加

区分	平成12(2000)年4月末		令和5(2023)年4月末	比較
第1号被保険者数	74,200人	⇒	132,736人	1.8倍

イ 要介護(要支援)認定者の増加

区分	平成12(2000)年4月末		令和5(2023)年4月末	比較
認定者数	9,800人	⇒	29,229人	3.0倍

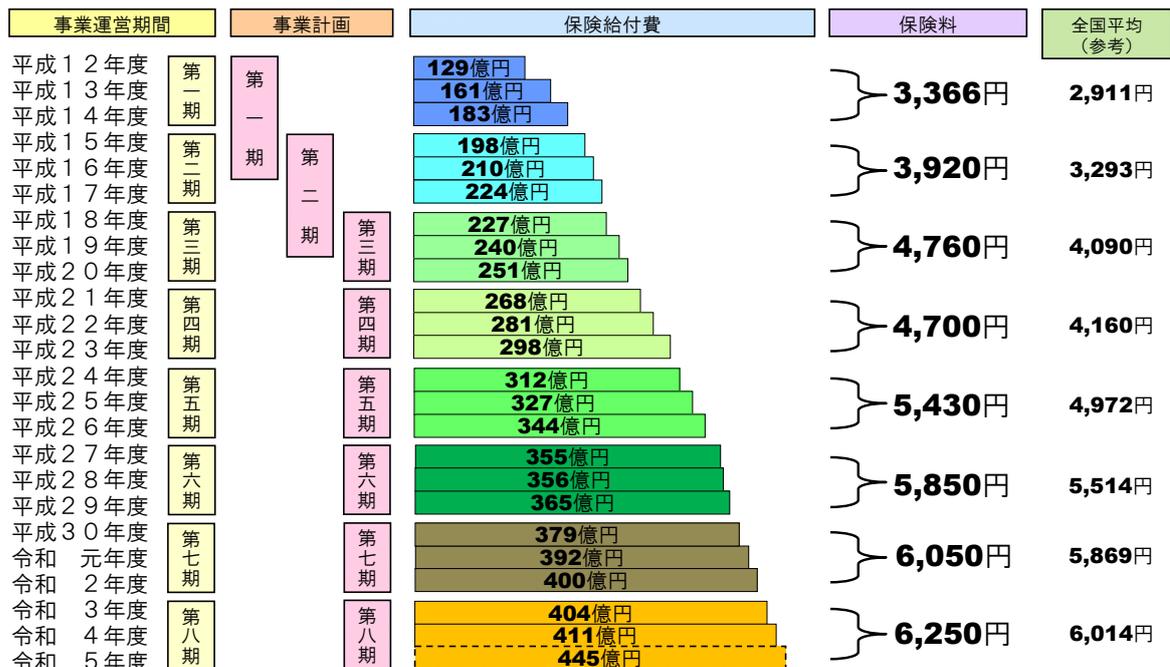
ウ サービス利用者の増加

区分	平成12(2000)年4月末		令和5(2023)年4月末	比較
在宅サービス利用者数	4,700人	⇒	17,685人	3.8倍
施設サービス利用者数	2,300人	⇒	3,105人	1.4倍
地域密着型サービス利用者数	—		4,179人	—
計	7,000人	⇒	24,969人	3.6倍

※平成12年(2000)年4月末は、市町村合併前の倉敷市・船穂町・真備町を合計したものの。

(2) 保険給付費と保険料の推移

介護保険料は高齢化の進展により月額6,250円まで上昇しています(参考 全国平均 6,014円、岡山県平均6,271円)。



※令和5(2023)年度の保険給付費は第8期介護保険事業計画における推計値。

※データの制約上平成12(2000)年度から平成17(2005)年度までは保険給付費、保険料については旧船穂町、真備町のものを含まない。

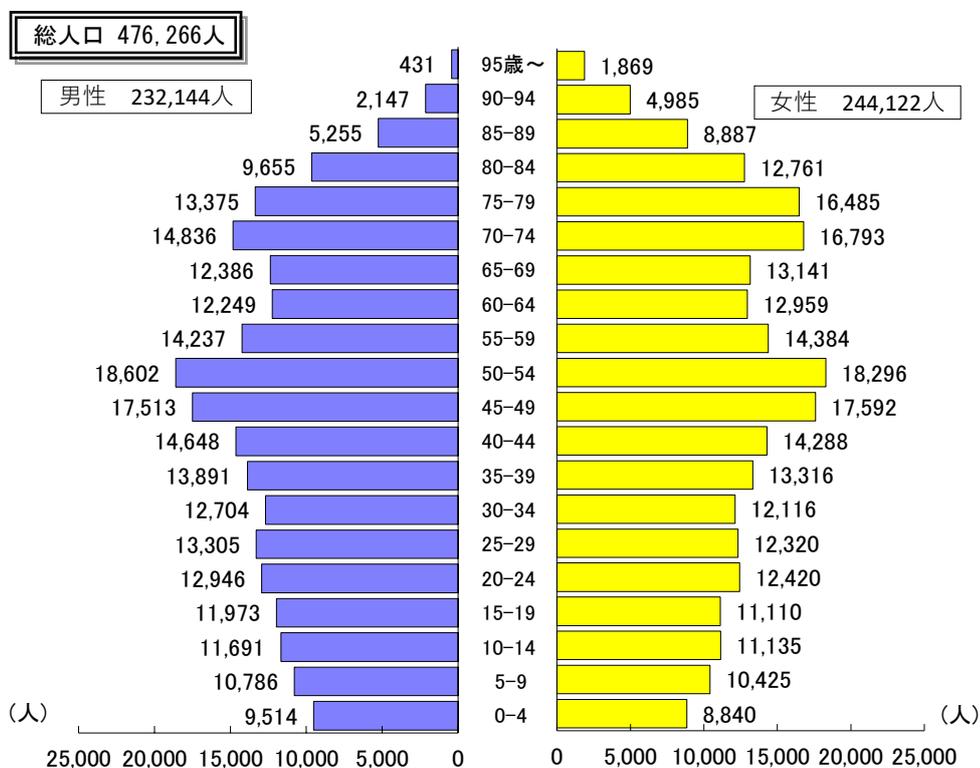
2 高齢者、要介護者等の現状

(1) 人口ピラミッド（令和5(2023)年9月末現在）

本市の人口は、令和5(2023)年9月末現在で、男性232,144人、女性244,122人、合計476,266人です。

年齢階級別にみると、第一次ベビーブーム世代の70～74歳と第二次ベビーブーム世代の50～54歳が多く、国と同じ2つのピークがある「つぼ型」の人口ピラミッドとなっています。

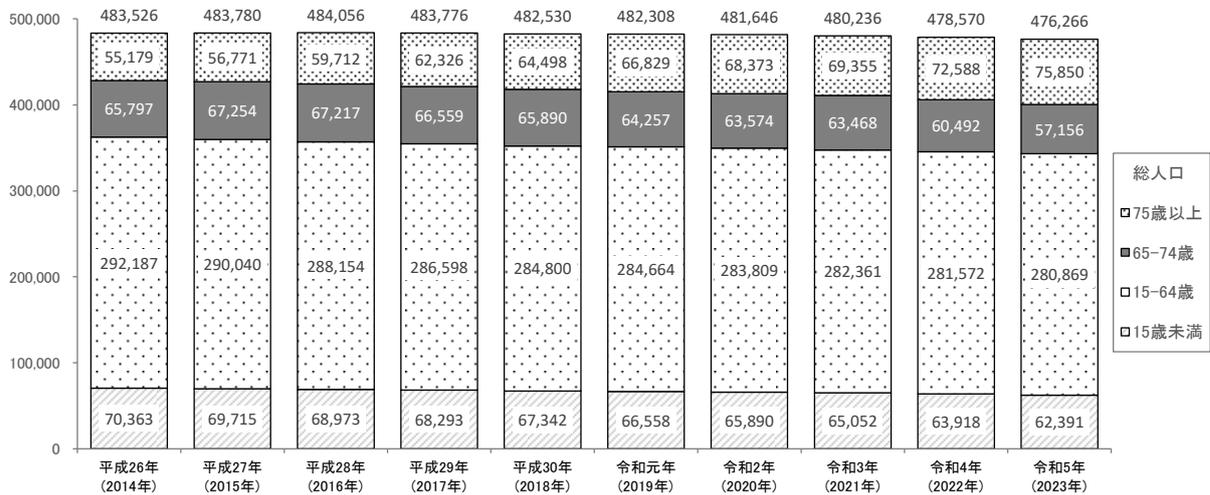
今後5年間で、70～74歳の階級が順次後期高齢期に達することから、本計画期間中は後期高齢者(75歳以上)の増加が見込まれます。



資料：住民基本台帳

(2) 年齢4区分別人口の推移

年齢4区分別人口の推移をみると、平成26(2014)年から令和5(2023)年にかけて、15～64歳の生産年齢人口は11,318人(3.9%)減少、65～74歳の前期高齢者は8,641人(13.1%)減少しているのに対して、75歳以上の後期高齢者は20,671人(37.5%)増加しています。

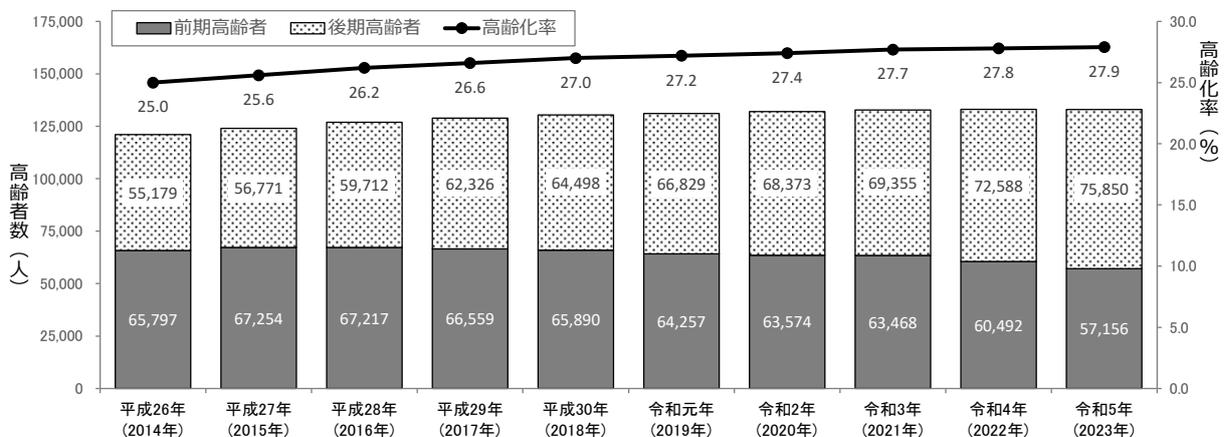


資料:住民基本台帳(各年9月末)

(3) 高齢者人口の内訳と高齢化率の推移

前期高齢者人口と後期高齢者人口の平成26(2014)年から令和5(2023)年までの推移をみると、後期高齢者は一貫して増加傾向にあるのに対し、前期高齢者は平成27年をピークに減少に転じています。

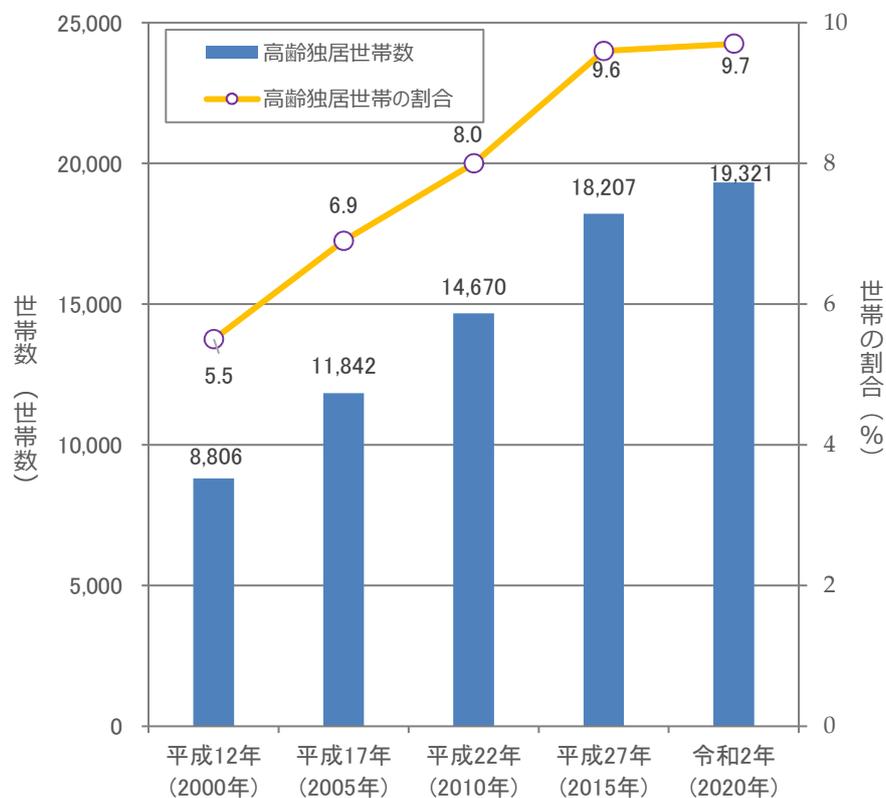
高齢化率(65歳以上の人口が総人口に占める割合)は、平成26(2014)年の25.0%から令和5(2023)年には27.9%へと、9年間で2.9ポイント上昇しています。



資料:住民基本台帳(各年9月末)

(4) 高齢者がいる世帯の状況

平成12(2000)年から令和2(2020)年までの20年間で、独居高齢者は8,806人から19,321人に増加(2.19倍)しており、一般世帯に占める高齢独居世帯割合は、平成12(2000)年の5.5%から令和2(2020)年時点で9.7%にまで増加しています。

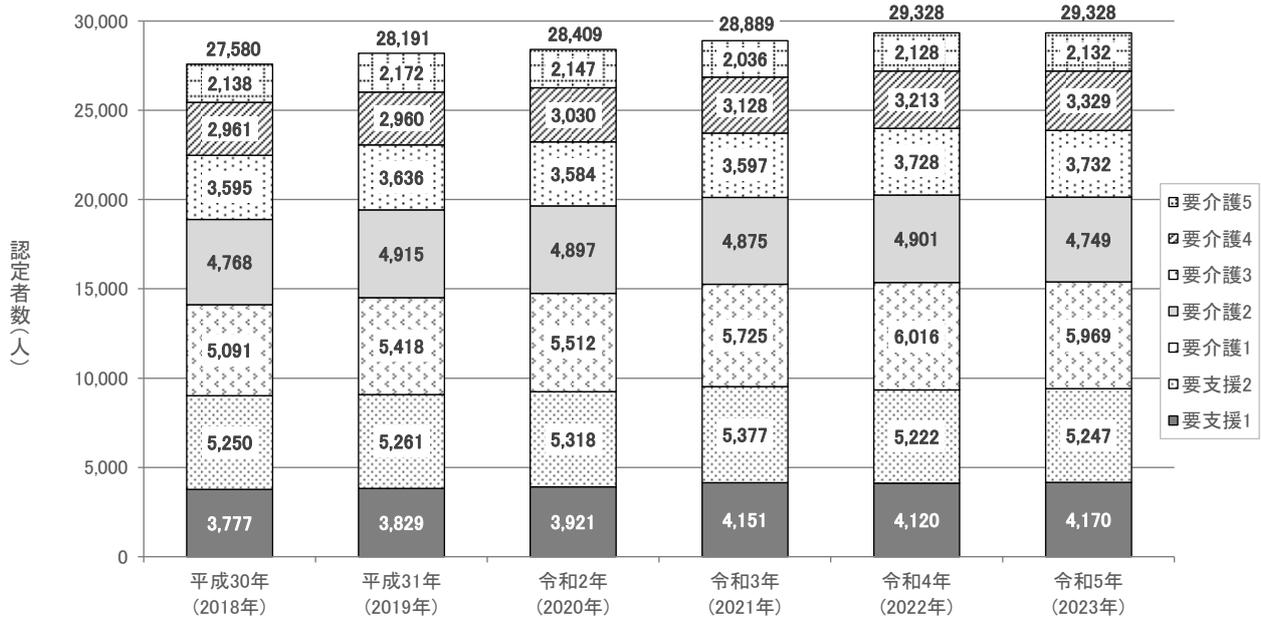


資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

(5) 要支援・要介護認定者数の状況

ア 要支援・要介護認定者数の推移

平成30(2018)年から令和5(2023)年までの5年間で、要支援・要介護認定者は27,580人から29,328人(1.06倍)に増加しています。また、令和5(2023)年3月末時点の要支援者は9,417人で、認定者の32.1%を占めています。

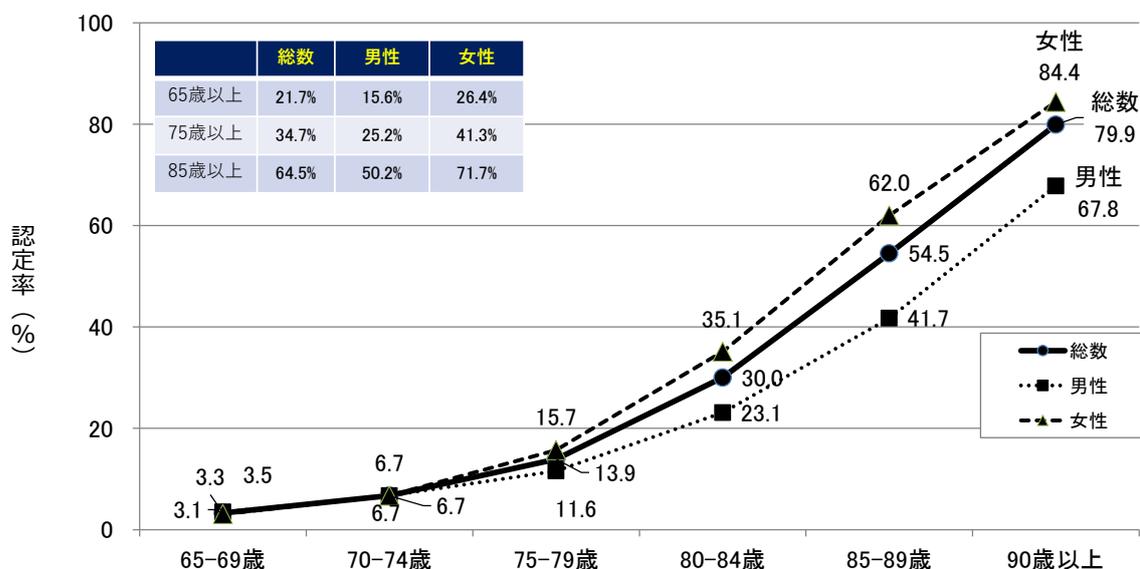


資料：厚生労働省「地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年3月末。
認定者には第2号の認定者を含んでいる。

イ 性別年齢階級別にみた認定率

令和5(2023)年3月末時点の認定率(=65歳以上認定者数/第1号被保険者数)は21.7%で、性別では、「男性」15.6%、「女性」26.4%となっています。

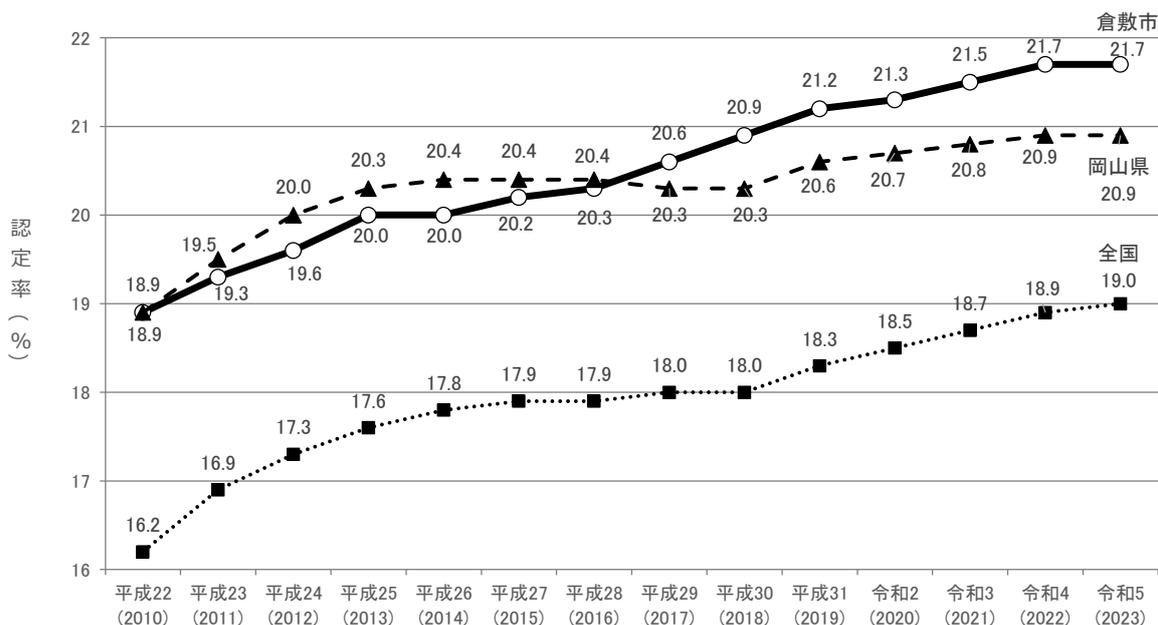
また、認定率は80歳を過ぎると急激に上昇し、75歳以上では、女性の方が高くなっています。



資料:厚生労働省「介護保険事業状況報告」令和5(2023)年3月分、倉敷市人口データをもとに作成

ウ 高齢者の認定率の推移及び全国・県平均との比較(実績ベース)

本市の認定率は全国平均を上回る水準で推移しており、平成22(2010)年以降、上昇が続いています。

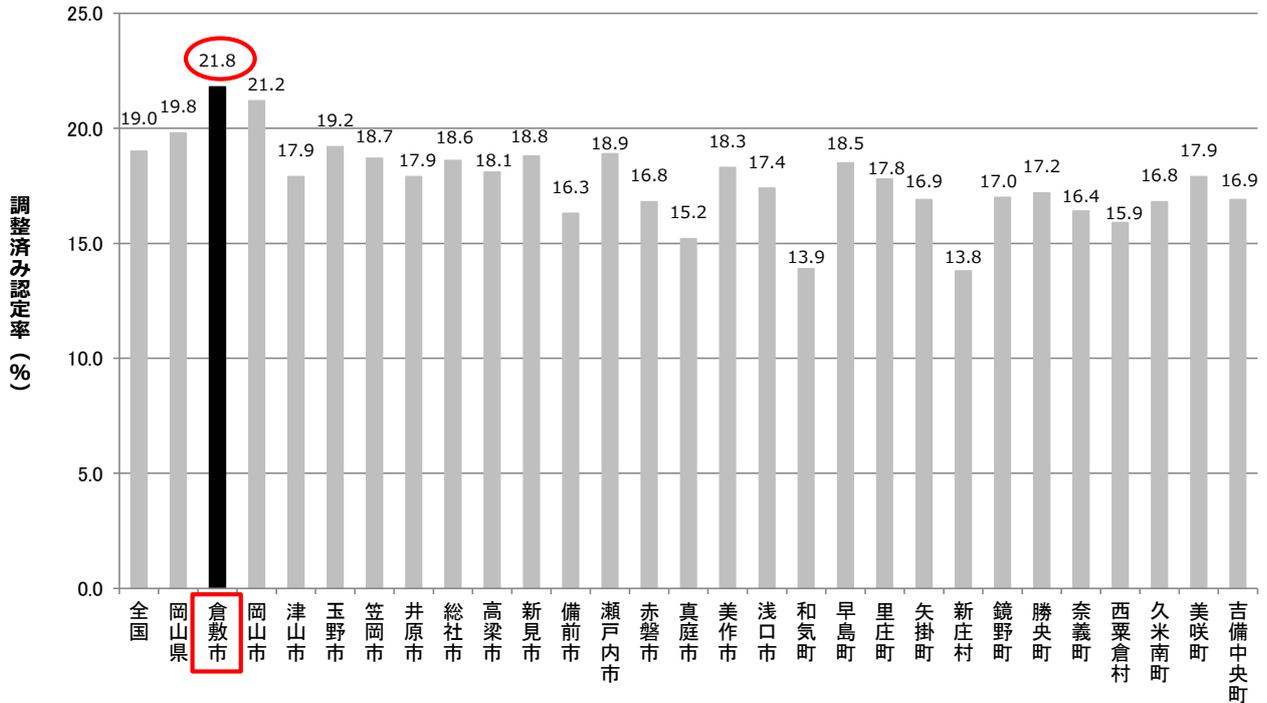


資料:厚生労働省「地域包括ケア「見える化」システム」。各年3月末

エ 調整済み認定率の市町村間比較

令和5(2023)年3月末時点の調整済み認定率(※)は、「倉敷市」が 21.8%で最も高く、次いで「岡山市」21.2%、「玉野市」19.2%の順となっています。

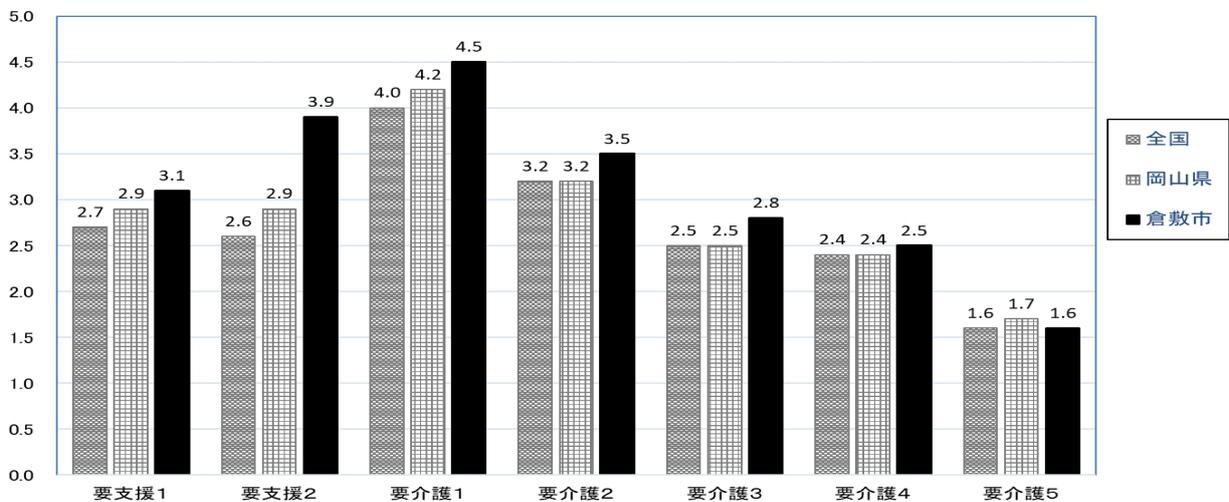
※ 調整済み認定率とは、認定率の大小に大きな影響を及ぼす、「第1号被保険者の性・年齢別人口構成」の影響を除外した認定率を意味する。



資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

オ 調整済み認定率の全国・県平均との比較

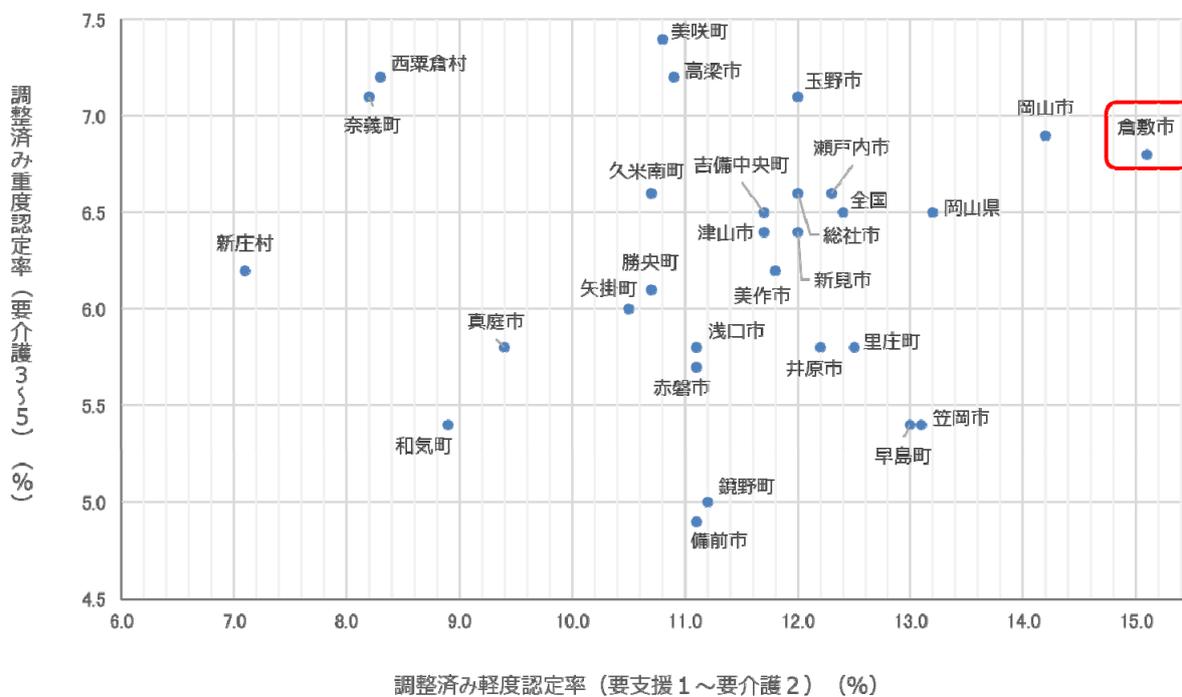
令和5(2023)年3月末時点の要介護度別の調整済み認定率をみると、全国、県平均と比べ、要支援1から要介護4までの認定率は、いずれも高い状態にあります。



資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

カ 調整済み軽度・重度認定率の市町村間比較

令和5(2023)年3月末時点の県内市町村の調整済み軽度認定率は、「倉敷市」が最も高く、調整済み重度認定率では、倉敷市は7番目となっています。

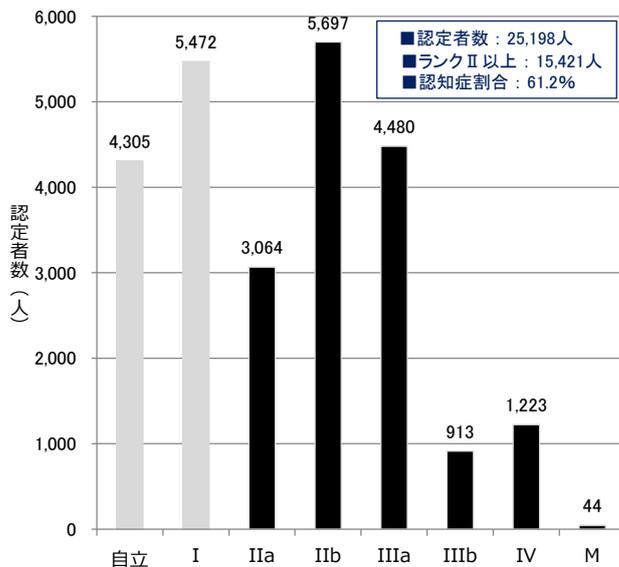


資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

(6) 認知症高齢者の状況

ア 認知症高齢者の日常生活自立度別にみた認定者数(令和5(2023)年3月末時点)

65歳以上の認定者で、「認知症高齢者の日常生活自立度」の判定がある25,198人のうち、「ランクⅡ以上」の者(認知症高齢者)は15,421人(61.2%)となっています。
(参考値)



※ 転入引継者や、コロナ特例による要介護認定の有効期間合算者等、日常生活自立度が不明の者は含まれていないため、参考値として掲出。

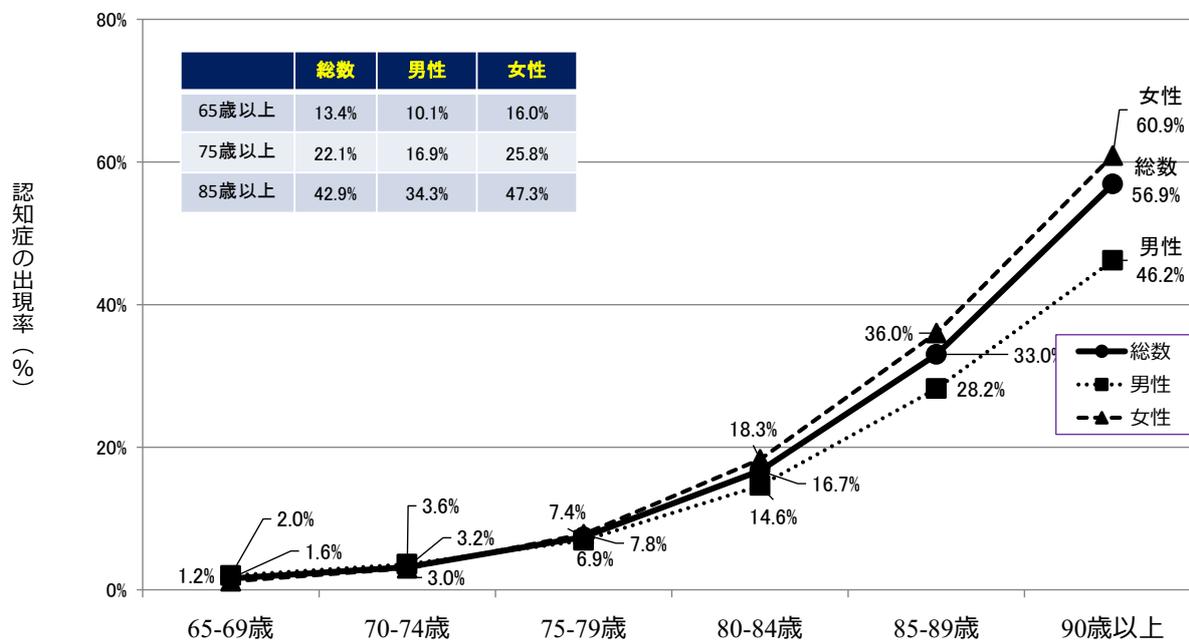
資料：倉敷市要介護認定データ(令和5(2023)年3月末)

認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
IIa	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
IIb	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
IIIa	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行動等
IIIb	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢaに同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷、他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

イ 性別年齢階級別にみた認知症者の出現率(令和4(2022)年9月末時点)

令和4(2022)年9月末時点の65歳以上の認定者の認知症出現率は13.4%(男性10.1%、女性16.0%)であり、85歳以降で急激に上昇しています。

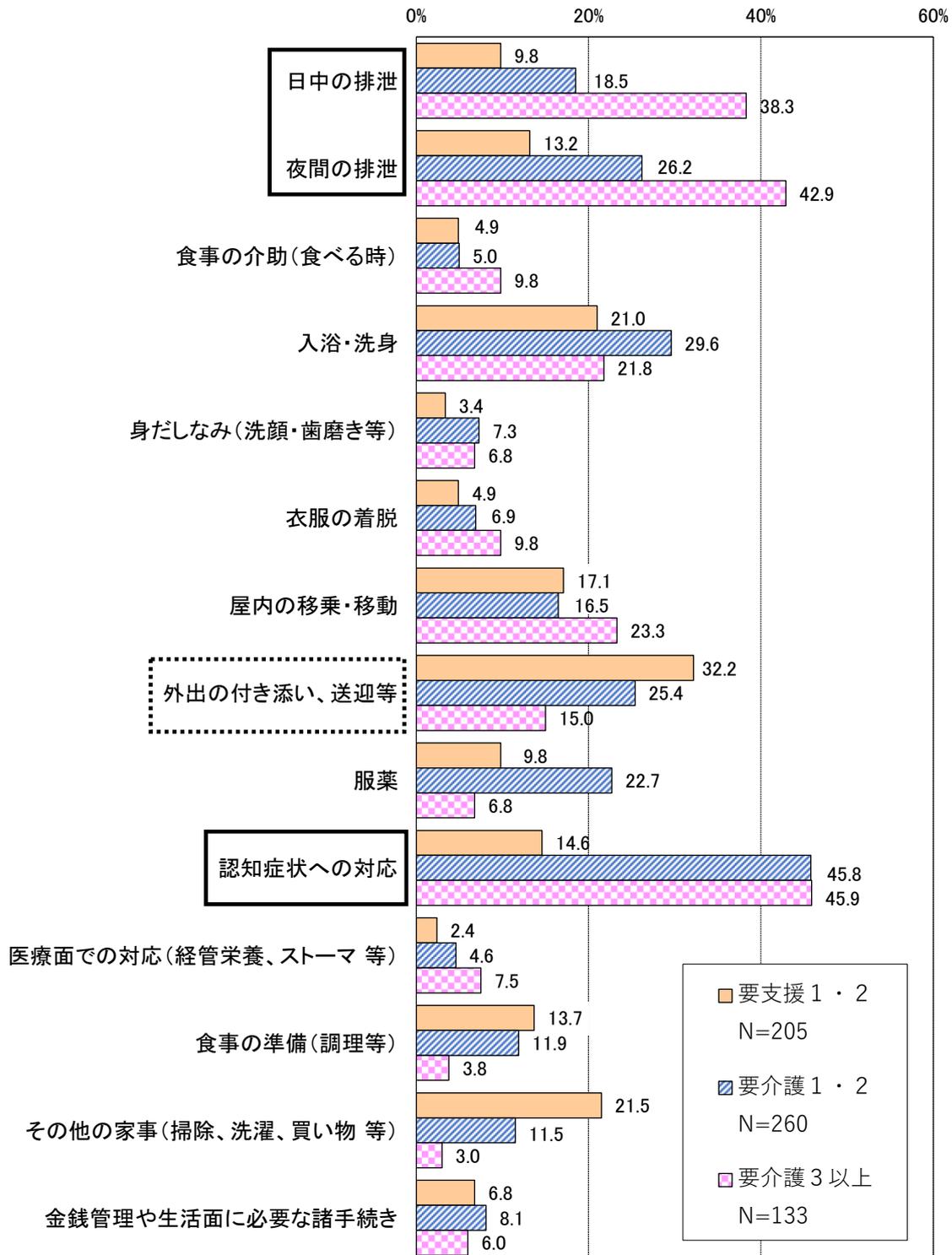


※ 認知症の出現率は、各年齢階級別人口のうち、認定を受けて認知症自立度がⅡ以上であった者の割合を指す。

資料：倉敷市の人口データ(令和4(2022)年9月)、要介護認定データ(令和4(2022)年9月)をもとに作成

ウ 介護者が不安に感じる介護(要介護度別)

介護者が不安に感じる介護については、要介護3以上では「認知症状への対応」「夜間の排泄」「日中の排泄」が多く、また要支援1・2の介護者では「外出の付き添い、送迎等」が最も多くあげられています。



資料：倉敷市在宅介護実態調査結果

3 高齢者保健福祉サービスの現状

前計画において目標指標として数値を掲げた項目について、計画値と実績値の比較を行いました。

令和4(2022)年度について見ると、重点施策の目標指標は、100%以上(目標を達成したものが)21件、70%以上100%未満が18件、50%以上70%未満が5件、達成率50%未満が4件となっています。また、一般施策(個別事業)の目標指標は、100%以上(目標を達成したものが)6件、70%以上100%未満が8件、50%以上70%未満が7件、達成率50%未満が0件となっています。

(1) 重点施策の目標指標

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
通いの場	実施か所数	か所	令和3	720	840	116.7%
			令和4	740	876	118.4%
			令和5	760	880	115.8%
	参加者数	人	令和3	12,240	13,524	110.5%
			令和4	12,580	14,103	112.1%
			令和5	12,920	14,080	109.0%
ふれあいサロン (市が助成する 住民主体のサロン)	実施か所数	か所	令和3	280	288	102.9%
			令和4	290	305	105.2%
			令和5	300	320	106.7%
	参加者数	人	令和3	5,600	5,230	93.4%
			令和4	5,800	5,361	92.4%
			令和5	6,000	5,200	86.7%
	週1回以上開催するふれあい サロンの実施か所数	か所	令和3	115	115	100.0%
			令和4	120	132	110.0%
			令和5	125	135	108.0%
自立支援・重度化 予防の取組	短期集中健幸アップ教室への 参加者数	人	令和3	30	18	60.0%
			令和4	40	9	22.5%
			令和5	50	7	14.0%
	自立支援に繋がる個別ケア会議 での検討事例件数	件	令和3	150	150	100.0%
			令和4	150	150	100.0%
			令和5	150	150	100.0%
	通いの場へのリハビリテーション 専門職の派遣回数	回	令和3	20	16	80.0%
			令和4	26	28	107.7%
			令和5	30	22	73.3%

(令和5(2023)年度は見込み)

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
高齢者の孤立防止	いきいきポイント登録者数	人	令和3	759	241	31.8%
			令和4	771	203	26.3%
			令和5	783	300	38.3%
	高齢者支援センターを知っている人の割合(ニーズ調査)	%	令和3			
			令和4	70%以上	65.6	93.7%
			令和5			
役割を持って活躍できる地域づくり	自らが社会参加していると思っている高齢者の割合	%	令和3	56.0	22.7	40.5%
			令和4	57.0	40.6	71.2%
			令和5	58.0	-	-
	出前講座「高齢者が自分らしくいきいきと暮らすための秘訣」の回数	回	令和3	10	2	20.0%
			令和4	15	9	60.0%
			令和5	20	5	25.0%
	健康状態を「とてもよい」又は「まあよい」と自覚している人の割合(ニーズ調査)	%	令和3			
			令和4	80%以上	77.8	97.3%
			令和5			
介護給付の適正化	出前講座「介護保険制度について」の回数	回	令和3	5	2	40.0%
			令和4	6	2	33.3%
			令和5	7	2	28.6%
	認定調査状況チェック	%	令和3	100	100	100.0%
			令和4	100	100	100.0%
			令和5	100	100	100.0%
	認定調査状況チェック	件	令和3	25,000	20,117	80.5%
			令和4	23,000	18,755	81.5%
			令和5	21,000	22,000	104.8%
	ケアプラン点検数	件	令和3	5,300	4,631	87.4%
			令和4	4,900	3,541	72.3%
			令和5	4,500	4,700	104.4%
	住宅改修の点検事前訪問調査件数	件	令和3	110	95	86.4%
			令和4	110	101	91.8%
			令和5	110	100	90.9%
	住宅改修の点検事前・事後申請確認	%	令和3	100	100	100.0%
			令和4	100	100	100.0%
			令和5	100	100	100.0%
	住宅改修の点検事前・事後申請確認	件	令和3	2,400	2,258	94.1%
			令和4	2,400	2,250	93.8%
			令和5	2,400	2,300	95.8%
	福祉用具購入調査(受付時の審査)	%	令和3	100	100	100.0%
			令和4	100	100	100.0%
			令和5	100	100	100.0%
	福祉用具購入調査(受付時の審査)	件	令和3	2,300	2,130	92.6%
			令和4	2,300	2,263	98.4%
			令和5	2,300	2,300	100.0%
福祉用具貸与調査(軽度者貸与の確認審査)	%	令和3	100	100	100.0%	
		令和4	100	100	100.0%	
		令和5	100	100	100.0%	

(令和5(2023)年度は見込み)

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
介護給付の適正化	福祉用具貸与調査 (軽度者貸与の確認審査)	件	令和3	1,100	1,196	108.7%
			令和4	1,000	1,050	105.0%
			令和5	1,000	1,100	110.0%
	縦覧点検・医療情報との突合・ 過誤件数(国保連合会委託分)	件	令和3	600	512	85.3%
			令和4	600	626	104.3%
			令和5	600	600	100.0%
	介護給付費通知件数	件	令和3	100,000	93,840	93.8%
			令和4	100,000	95,351	95.4%
			令和5	100,000	96,000	96.0%
支え合いの体制を 強化するための 人材養成	老人クラブ会員数	人	令和3	16,055	14,354	89.4%
			令和4	16,055	13,257	82.6%
			令和5	16,055	12,991	80.9%
	シルバー人材センター会員数	人	令和3	1,800	1,459	81.1%
			令和4	1,850	1,380	74.6%
			令和5	1,900	1,529	80.5%
	生活・介護支援サポーター 養成講座受講者数(累計)	人	令和3	494	473	95.7%
			令和4	539	538	99.8%
			令和5	584	610	104.5%
	三世代交流を行うふれあいサロン (市が助成する住民主体のサ ロン)数	か所	令和3	31	22	71.0%
			令和4	34	19	55.9%
			令和5	37	20	54.1%
認知症施策	認知症カフェか所数	か所	令和3	25	22	88.0%
			令和4	25	23	92.0%
			令和5	26	25	96.2%
	認知症サポーター養成講座 受講者数	人	令和3	3,800	1,687	44.4%
			令和4	3,850	2,506	65.1%
			令和5	3,900	3,200	82.1%
	認知症サポーター養成講座 受講者の内、認知症サポーター キッズ教室参加者数	人	令和3	400	476	119.0%
			令和4	440	610	138.6%
			令和5	480	900	187.5%
	認知症初期集中支援チームの介入に より、医療・介護サービスにつながった 割合(認知症施策推進大綱のKPIより)	%	令和3	65%以上	66.7	102.6%
			令和4	65%以上	83.3	128.2%
			令和5	65%以上	66.7	102.6%
	認知症マイスターの養成者数	人	令和3	150	中止	-
			令和4	175	140	80.0%
			令和5	200	159	79.5%
	チームオレンジ拠点数	か所	令和3	3	1	33.3%
			令和4	4	2	50.0%
			令和5	5	2	40.0%
認知症に対するイメージの内、認知症 が身近に感じられる病気であると答え る人の割合(ニーズ調査)	%	令和3				
		令和4	80%以上	80.7	100.9%	
		令和5				
認知症に対する正しい理解を推進し、 認知症に対するイメージの内、地域で 見守る必要があると答える人の割合 (ニーズ調査)	%	令和3				
		令和4	65%以上	59.9	92.2%	
		令和5				

(令和5(2023)年度は見込み)

施策	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
在宅医療・介護連携の取組	在宅医療・介護連携推進会議の開催回数	回	令和3	3	2	66.7%
			令和4	3	3	100.0%
			令和5	4	2	50.0%
	医療・介護・生活支援等多職種との連携が円滑に行えていると感じている人の割合	%	令和3	60%以上		
			令和4	63%以上	63.0	100.0%
			令和5	65%以上		
	在宅医療・介護を支える地域づくりのための市民に向けた啓発事業の開催回数	回	令和3	3	4	133.3%
			令和4	4	3	75.0%
			令和5	4	7	175.0%
	尊厳が守られた介護サービスが提供されていると思っている人の割合	%	令和3			
			令和4	83.2	86.8	104.3%
			令和5			
家族に対して、必要な介護サービスが受けられていると思っている人の割合	%	令和3				
		令和4	81.1	87.6	108.0%	
		令和5				
最期まで自宅で療養が可能と思える人の割合(ニーズ調査)	%	令和3				
		令和4	9.0%以上	7.2	80.0%	
		令和5				
介護人材確保と介護サービスの質の向上	介護保険事業者等連絡協議会による介護従事者確保事業の研修参加者数	人	令和3	155	93	60.0%
			令和4	165	47	28.5%
			令和5	175	103	58.9%
	訪問看護師確保定着支援事業の参加者数(学生のインターンシップ)	人	令和3	30	4	13.3%
			令和4	30	17	56.7%
			令和5	30	17	56.7%
	訪問看護師実地研修事業参加者数(未就業看護師)	人	令和3	10	11	110.0%
			令和4	11	19	172.7%
			令和5	12	20	166.7%
	職に対して、やりがいをもって従事できていると思っている介護サービス従事者の割合	%	令和3			
			令和4	23.7	71.1	300.0%
			令和5			

(令和5(2023)年度は見込み)

(2) 一般施策（個別事業）の目標指標

施策(個別事業)	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
心の健康づくりの推進	くらしき心ほっとサポーター数	人	令和3	130	121	93.1%
			令和4	130	113	86.9%
			令和5	130	121	93.1%
健康づくりに関する講座 (転倒予防・骨粗しょう症)の開催	介護予防事業参加者延人数(高齢者支援センター関連)	人	令和3	17,000	8,153	48.0%
			令和4	18,000	10,204	56.7%
			令和5	19,000	10,000	52.6%
	介護予防事業参加者延人数(倉敷市総合福祉事業団関連)	人	令和3	22,000	10,073	45.8%
			令和4	22,500	18,121	80.5%
			令和5	23,000	19,000	82.6%
経済的負担に対する助成 (予防接種の実施)	高齢者インフルエンザの予防接種者数	人	令和3	73,000	85,875	117.6%
			令和4	73,000	85,482	117.1%
			令和5	73,000	87,000	119.2%
老人福祉センター・憩の家の活用	老人福祉センター延利用者数	人	令和3	83,300	30,519	36.6%
			令和4	83,300	48,423	58.1%
			令和5	83,300	56,300	67.6%
	憩の家延利用者数	人	令和3	331,000	146,147	44.2%
			令和4	331,000	230,368	69.6%
			令和5	331,000	245,500	74.2%
多様なふれあいの場への支援 (三世代ふれあい交流事業の支援)	三世代ふれあい交流事業参加人数	人	令和3	5,650	2,399	42.5%
			令和4	5,700	3,682	64.6%
			令和5	5,750	5,000	87.0%
各種講座・催しの実施(生きがいデイサービス事業の実施)	生きがいデイサービス事業延受講者数	人	令和3	6,000	2,181	36.4%
			令和4	6,000	3,640	60.7%
			令和5	6,000	3,630	60.5%
各種講座・催しの実施 (シルバー作品展の実施)	シルバー作品展出展者数	人	令和3	380	中止	-
			令和4	390	254	65.1%
			令和5	400	278	69.5%
地域活動の意欲向上の支援 (倉敷マスターズ制度)	倉敷マスター認定者数	人	令和3	10	7	70.0%
			令和4	10	8	80.0%
			令和5	10	4	40.0%
防火対策の推進(高齢者・障がい者世帯を中心とした住宅防火指導診断)	高齢者世帯の防火査察件数	件	令和3	1,600	2,150	134.4%
			令和4	1,600	4,975	310.9%
			令和5	1,600	3,474	217.1%
交通安全対策の推進(高齢者向け交通安全教室の実施)	高齢者向け交通安全教室受講者数	人	令和3	200	307	153.5%
			令和4	250	270	108.0%
			令和5	300	300	100.0%
消費者被害の防止(消費者被害防止のための啓発)	出前講座・広報紙・SNS・マスコミ等による啓発活動回数	回	令和3	64	44	68.8%
			令和4	76	59	77.6%
			令和5	78	68	87.2%
相談窓口の強化・連携の推進 (高齢者支援センターでの相談)	高齢者支援センター相談件数	件	令和3	101,500	108,102	106.5%
			令和4	101,750	104,195	102.4%
			令和5	102,000	108,014	105.9%

(令和5(2023)年度は見込み)

施策(個別事業)	数値項目	単位	年度	計画値	実績値	対計画比
相談窓口の強化・連携の推進(くらしき健康福祉プラザ一般の初期相談)	保健福祉相談室利用者数	人	令和3	5,500	2,356	42.8%
			令和4	5,500	3,263	59.3%
			令和5	5,500	3,458	62.9%
交通弱者の移動支援(コミュニティタクシーの導入を行う地区数)	コミュニティタクシーの導入を行う地区数	地区	令和3	10	9	90.0%
			令和4	11	9	81.8%
			令和5	11	9	81.8%
ノンステップバス等を導入する事業者への支援	市内を運行するノンステップバスの台数	台	令和3	23	34	147.8%
			令和4	24	37	154.2%
			令和5	25	39	156.0%
地域による支援体制の構築(高齢者支援センターによる実態把握調査の推進)	高齢者支援センターによる実態把握調査件数	件	令和3	18,000	19,280	107.1%
			令和4	18,500	20,000	108.1%
			令和5	19,000	21,076	110.9%
日常生活の自立支援	日常生活自立支援事業利用者数	人	令和3	70	69	98.6%
			令和4	70	64	91.4%
			令和5	70	68	97.1%
高齢者等の権利擁護(成年後見制度の利用支援)	成年後見人市長申立件数	件	令和3	65	49	75.4%
			令和4	70	62	88.6%
			令和5	70	70	100.0%
	高齢者虐待相談件数	件	令和3	160	145	90.6%
			令和4	160	118	73.8%
			令和5	160	120	75.0%

(令和5(2023)年度は見込み)

4 介護給付等対象サービスの現状

介護給付サービス及び介護予防サービスについて、給付費及び事業量の実績値とそれぞれの計画値を比較しました。

介護保険料算定の基となる介護給付サービス及び介護予防サービスの総給付費は、感染症流行の影響等が見られるものの、各年度とも対計画比が9割を超え、おおむね計画どおりとなっています。

区分	年度	給付費実績(単位:千円)	対計画比
介護給付サービス及び介護予防サービスの総給付費	令和3	38,409,189	96.3%
	令和4	39,196,921	94.8%
	令和5	40,099,323	94.3%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計(令和5(2023)年度は見込み)

(1) 介護給付サービス

ア 居宅サービス

(給付費単位:千円、事業量単位:回、人、日/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
訪問介護(回数)	令和3	1,691,906	105.4%	661,127	106.7%
	令和4	1,754,742	107.4%	678,249	107.7%
	令和5	1,870,518	112.0%	704,660	109.5%
訪問入浴介護(回数)	令和3	108,766	92.0%	9,026	92.1%
	令和4	86,395	66.9%	7,080	66.1%
	令和5	91,988	67.0%	7,512	66.0%
訪問看護(回数)	令和3	926,128	98.2%	218,604	96.9%
	令和4	925,287	94.2%	215,806	91.9%
	令和5	951,360	93.3%	218,287	89.7%
訪問リハビリテーション(回数)	令和3	158,266	87.8%	55,643	87.2%
	令和4	169,711	90.1%	59,757	89.6%
	令和5	180,210	93.3%	63,806	93.3%
居宅療養管理指導(人数)	令和3	370,018	106.6%	32,533	102.6%
	令和4	399,115	110.2%	35,132	106.2%
	令和5	443,280	117.9%	38,232	111.5%
通所介護(回数)	令和3	4,556,275	92.3%	609,101	93.2%
	令和4	4,555,293	86.6%	603,852	87.0%
	令和5	4,695,012	85.0%	616,920	84.6%
通所リハビリテーション(回数)	令和3	1,978,287	97.7%	249,250	97.0%
	令和4	2,020,460	96.5%	254,487	95.7%
	令和5	2,084,145	96.5%	262,009	95.5%
短期入所生活介護(日数)	令和3	1,882,121	96.2%	218,825	95.4%
	令和4	1,947,696	97.3%	225,658	96.1%
	令和5	1,995,923	96.2%	226,883	93.2%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計(令和5(2023)年度は見込み)

(給付費単位:千円、事業量単位:回、人、日/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
短期入所療養介護 (日数)	令和3	81,763	99.0%	6,986	102.4%
	令和4	72,004	79.5%	6,019	80.8%
	令和5	59,116	59.7%	4,981	61.2%
特定施設入居者生活介護 (人数)	令和3	2,399,096	93.3%	12,628	92.8%
	令和4	2,451,591	86.5%	12,728	84.7%
	令和5	2,603,173	89.8%	13,188	85.8%
福祉用具貸与(人数)	令和3	1,213,050	102.9%	86,586	100.3%
	令和4	1,306,386	106.1%	92,213	102.2%
	令和5	1,362,906	106.1%	94,596	100.4%
特定福祉用具販売 (人数)	令和3	45,362	93.8%	1,408	100.3%
	令和4	50,074	104.7%	1,509	109.3%
	令和5	51,084	106.2%	1,500	107.8%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計
(令和5(2023)年度は見込み)

イ 地域密着型サービス

(給付費単位:千円、事業量単位:回、人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
地域密着型通所介護 (回数)	令和3	1,213,551	102.2%	161,152	102.5%
	令和4	1,174,959	98.5%	156,222	99.0%
	令和5	1,153,321	94.2%	153,182	94.8%
認知症対応型通所介護 (回数)	令和3	226,242	85.1%	21,712	85.9%
	令和4	235,122	83.0%	22,702	84.8%
	令和5	222,689	75.6%	21,001	75.5%
小規模多機能型居宅介護 (人数)	令和3	1,739,234	88.4%	8,772	90.4%
	令和4	1,791,214	88.6%	8,953	90.2%
	令和5	1,778,902	86.0%	8,712	86.1%
認知症対応型共同生活 介護(人数)	令和3	3,788,670	97.2%	15,054	98.1%
	令和4	3,834,064	95.2%	14,962	94.4%
	令和5	3,909,393	93.4%	14,952	90.8%
地域密着型特定施設入居 者生活介護(人数)	令和3	129,293	94.4%	676	98.8%
	令和4	152,151	89.8%	788	93.8%
	令和5	162,990	78.1%	804	77.9%
地域密着型介護老人福祉 施設入所者生活介護 (人数)	令和3	1,554,983	91.9%	5,443	92.8%
	令和4	1,594,086	94.1%	5,542	94.4%
	令和5	1,636,573	91.2%	5,532	89.0%
定期巡回・随時対応型 訪問介護看護(人数)	令和3	185,808	197.5%	1,108	200.7%
	令和4	278,023	227.5%	1,642	231.9%
	令和5	250,788	205.2%	1,524	215.3%
看護小規模多機能型居宅 介護(人数)	令和3	379,984	69.2%	1,335	72.2%
	令和4	436,320	56.6%	1,527	59.2%
	令和5	374,346	47.3%	1,332	50.2%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計
(令和5(2023)年度は見込み)

ウ 施設サービス

(給付費単位:千円、事業量単位:人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護老人福祉施設(人数)	令和3	4,976,283	96.7%	18,996	98.3%
	令和4	5,077,323	98.6%	19,190	99.3%
	令和5	5,156,681	100.1%	19,092	98.8%
介護老人保健施設(人数)	令和3	4,460,687	96.6%	15,549	97.8%
	令和4	4,520,178	97.8%	15,688	98.7%
	令和5	4,640,151	100.4%	15,420	97.0%
介護療養型医療施設(人数)	令和3	328,006	102.2%	964	110.0%
	令和4	288,545	89.8%	894	102.1%
	令和5	245,216	皆増	720	皆増
介護医療院(人数)	令和3	584,662	110.4%	1,601	115.0%
	令和4	574,376	108.4%	1,592	114.4%
	令和5	597,267	69.4%	1,632	72.0%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計(令和5(2023)年度は見込み)

エ その他

(給付費単位:千円、事業量単位:人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
住宅改修(人数)	令和3	103,909	101.2%	1,291	107.6%
	令和4	96,320	92.0%	1,261	103.0%
	令和5	78,384	72.0%	972	76.4%
居宅介護支援(人数)	令和3	1,781,819	100.8%	121,914	98.7%
	令和4	1,866,262	102.9%	126,617	100.0%
	令和5	1,906,219	102.4%	127,824	98.3%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計(令和5(2023)年度は見込み)

(2) 予防給付サービス

ア 居宅サービス

(給付費単位:千円、事業量単位:回、人、日/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護予防訪問入浴介護(回数)	令和3	313	皆増	37	皆増
	令和4	286	皆増	34	皆増
	令和5	323	皆増	40	皆増
介護予防訪問看護(回数)	令和3	148,260	88.5%	43,463	92.2%
	令和4	140,729	80.9%	41,146	84.0%
	令和5	132,527	74.9%	39,362	79.1%
介護予防訪問リハビリテーション(回数)	令和3	38,573	135.8%	14,001	143.0%
	令和4	41,906	141.6%	15,425	151.2%
	令和5	46,878	154.9%	17,501	167.8%
介護予防居宅療養管理指導(人数)	令和3	21,945	100.3%	2,230	101.5%
	令和4	22,461	96.8%	2,307	99.1%
	令和5	22,707	94.5%	2,364	98.0%
介護予防通所リハビリテーション(人数)	令和3	443,618	94.1%	13,250	92.7%
	令和4	442,171	92.5%	13,225	91.1%
	令和5	466,140	96.5%	13,656	92.6%

(給付費単位:千円、事業量単位:回、人、日/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護予防短期入所生活介護(日数)	令和3	11,098	123.1%	1,762	128.3%
	令和4	14,146	149.7%	2,172	151.6%
	令和5	13,403	141.9%	2,074	144.7%
介護予防短期入所療養介護(日数)	令和3	502	皆増	69	皆増
	令和4	238	皆増	24	皆増
	令和5	0	—	0	—
介護予防特定施設入居者生活介護(人数)	令和3	139,617	84.6%	1,772	84.4%
	令和4	121,026	69.0%	1,524	68.3%
	令和5	122,247	68.4%	1,536	67.4%
介護予防福祉用具貸与(人数)	令和3	307,705	98.3%	41,253	97.7%
	令和4	321,429	96.5%	42,444	94.5%
	令和5	341,396	99.0%	44,340	95.4%
特定介護予防福祉用具販売(人数)	令和3	18,667	117.2%	722	111.4%
	令和4	19,655	119.0%	754	112.2%
	令和5	21,562	128.3%	804	117.5%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計
(令和5(2023)年度は見込み)

イ 地域密着型サービス

(給付費単位:千円、事業量単位:回、人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
介護予防認知症対応型通所介護(回数)	令和3	558	33.7%	68	27.8%
	令和4	1,511	91.1%	194	79.2%
	令和5	3,042	183.5%	378	154.3%
介護予防小規模多機能型居宅介護(人数)	令和3	93,512	90.7%	1,281	91.2%
	令和4	86,502	81.5%	1,190	82.6%
	令和5	85,825	77.8%	1,140	76.0%
介護予防認知症対応型共同生活介護(人数)	令和3	10,377	121.3%	47	130.6%
	令和4	9,586	67.2%	44	73.3%
	令和5	8,097	56.8%	36	60.0%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計
(令和5(2023)年度は見込み)

ウ その他

(給付費単位:千円、事業量単位:人/年)

サービス種類	年度	給付費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
住宅改修(人数)	令和3	82,471	114.4%	967	103.3%
	令和4	85,323	114.0%	989	101.7%
	令和5	92,091	118.6%	1,044	103.6%
介護予防支援(人数)	令和3	227,800	97.2%	50,680	96.1%
	令和4	232,111	93.1%	51,471	91.8%
	令和5	241,450	91.9%	53,184	90.0%

※「介護保険事業状況報告」年報(暫定値含む)及び地域包括ケア「見える化」システム将来推計
(令和5(2023)年度は見込み)

(3) 地域支援事業

(事業費単位:千円)

サービス種類	年度	事業費実績	対計画比
介護予防・日常生活支援 総合事業費	令和3	1,373,544	87.8%
	令和4	1,390,994	86.0%
	令和5	1,442,015	86.4%
包括的支援事業費	令和3	483,762	94.8%
	令和4	489,832	92.0%
	令和5	493,535	91.9%
任意事業費	令和3	233,746	97.1%
	令和4	234,131	92.2%
	令和5	234,726	87.7%

(令和5(2023)年度は見込み)

(4) 介護予防・生活支援サービス事業

(事業費単位:千円、事業量単位:人、回/年)

サービス種類	年度	事業費実績	対計画比	事業量実績	対計画比
訪問型サービス(人数) (総合事業訪問介護)	令和3	272,307	94.7%	14,325	91.5%
	令和4	268,432	91.0%	14,040	87.4%
	令和5	278,278	92.0%	14,649	88.9%
通所型サービス(人数) (総合事業通所介護)	令和3	818,468	86.1%	28,494	85.5%
	令和4	836,573	85.4%	28,953	84.3%
	令和5	867,258	86.0%	30,337	85.7%
通所型短期集中予防 サービス(回数)	令和3	930	59.5%	277	44.4%
	令和4	513	31.6%	152	23.5%
	令和5	554	32.9%	168	25.0%
介護予防ケアマネジ メント(人数)	令和3	90,845	86.3%	20,156	84.4%
	令和4	89,374	81.8%	19,817	79.9%
	令和5	92,652	81.8%	21,057	81.9%

(令和5(2023)年度は見込み)

(5) 介護給付等の主な指標

ア 介護保険事業所数推移(過去3年)

本市内の指定介護保険事業所数の、各年度4月1日現在の推移は以下のとおりです。

(単位:事業所、人)

	サービス種別	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
施設・居住系サービス	介護老人福祉施設	24(1,665)	24(1,665)	24(1,665)	24(1,665)
	地域密着型介護老人福祉施設	17(468)	17(468)	17(468)	17(468)
	介護老人保健施設	15(1,350)	15(1,350)	15(1,350)	15(1,350)
	介護療養型医療施設	1(96)	1(96)	1(96)	0(0)
	介護医療院	3(156)	3(156)	3(156)	4(252)
	認知症対応型共同生活介護	78(1,344)	77(1,317)	76(1,308)	77(1,326)
	特定施設入居者生活介護	35(1,908)	35(1,908)	35(1,978)	35(1,978)
	地域密着型特定施設入居者生活介護	2(58)	2(58)	3(87)	3(87)
	合計	175(7,045)	174(7,018)	174(7,108)	175(7,126)

※施設・居住系サービスの()内は定員数。

※R6(2024)年度は第8期計画による整備中の開設予定分を含む。

	サービス種別	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
在宅サービス	短期入所生活介護	52	52	52
	短期入所療養介護	17	17	17
	訪問介護	100	98	102
	訪問入浴介護	6	6	6
	訪問看護	36	40	42
	訪問リハビリテーション	5	6	6
	居宅療養管理指導	6	6	5
	通所介護	102	103	107
	地域密着型通所介護	67	64	64
	通所リハビリテーション	37	37	37
	認知症対応型通所介護	10	10	9
	特定福祉用具販売	27	25	26
	福祉用具貸与	26	24	25
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	6	7
	小規模多機能型居宅介護	38	38	38
	看護小規模多機能型居宅介護	4	6	6
	居宅介護支援	107	107	109
介護予防支援	25	25	25	
	合計	669	670	683

(参考) 高齢者向け住まいの件数及び定員(戸)数 (住まい単位: 件、定員数: 人、戸数: 戸)

区 分	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	備 考
有料老人ホーム(サービス付き高齢者向け住宅を除く)	60(2,368)	62(2,483)	63(2,513)	()内は定員数 []内は戸数
サービス付き高齢者向け住宅(※)	27[764]	28[794]	27[758]	
養護老人ホーム	2(180)	2(180)	2(180)	
軽費老人ホーム	11(521)	11(521)	11(521)	

(各年度4月1日現在)

※ サービス付き高齢者向け住宅は、おおむね有料老人ホームに該当するが、各年度に記載の件(戸)数のうち4件[36戸]は、有料老人ホームに該当しないサービス付き高齢者向け住宅である。

イ 施設・居住系・在宅の状況について(全国・県との比較)

令和5(2023)年3月の介護サービス受給率(=受給者数/第1号被保険者数)を全国平均と比べると、本市は特に居住系、在宅サービスが充実していることがわかります。

(単位: %)

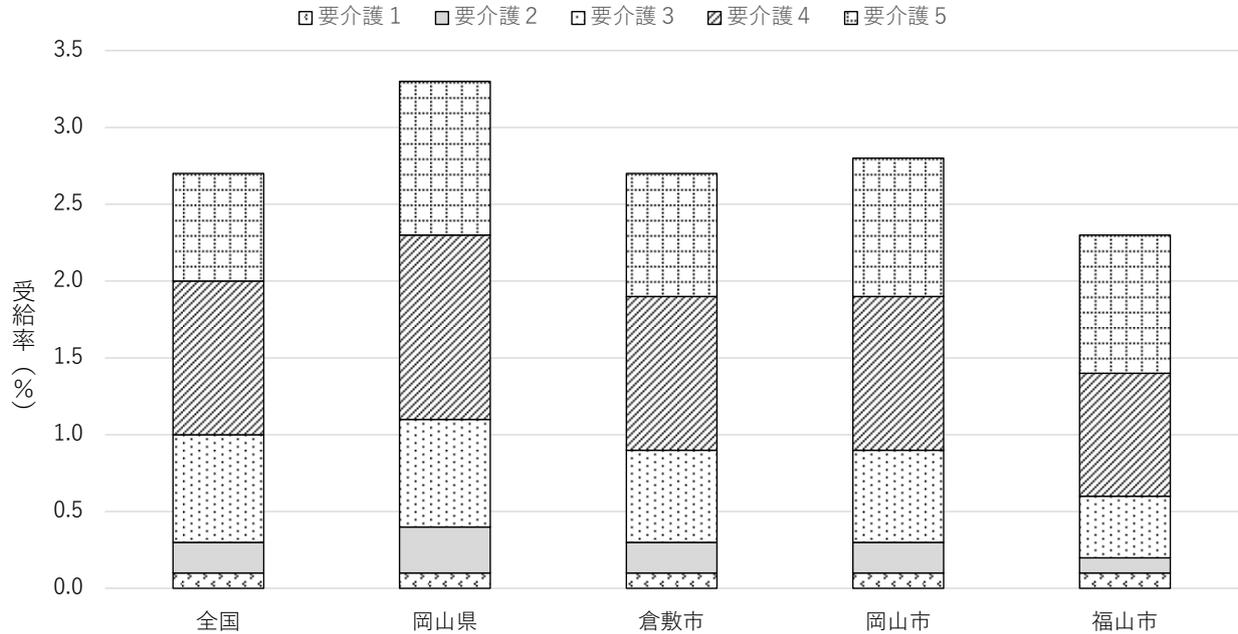
項 目 名	全国	岡山県	倉敷市
施設サービス	2.8	3.3	2.7
居住系サービス	1.3	1.8	1.9
在宅サービス	10.4	11.2	11.9

資料: 厚生労働省: 地域包括ケア「見える化」システム

- ※ 施設サービスとは、以下のサービスを意味する。
介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院
- ※ 居住系サービスとは、以下のサービスを意味する。
特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護
- ※ 在宅サービスとは、以下のサービスを意味する。
訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護(介護老人保健施設)、短期入所療養介護(介護医療院等)、福祉用具貸与、福祉用具購入、住宅改修、介護予防支援・居宅介護支援、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護
(なお、利用者を重複してカウントすることを防ぐため、介護予防支援・居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護の3サービスの受給者総数の総計を概数として利用します。)

ウ 受給率(施設サービス)(要介護度別)

施設サービスの受給率をみると、岡山県の平均を下回る一方、全国平均や岡山市とほぼ同じで、福山市を上回っています。

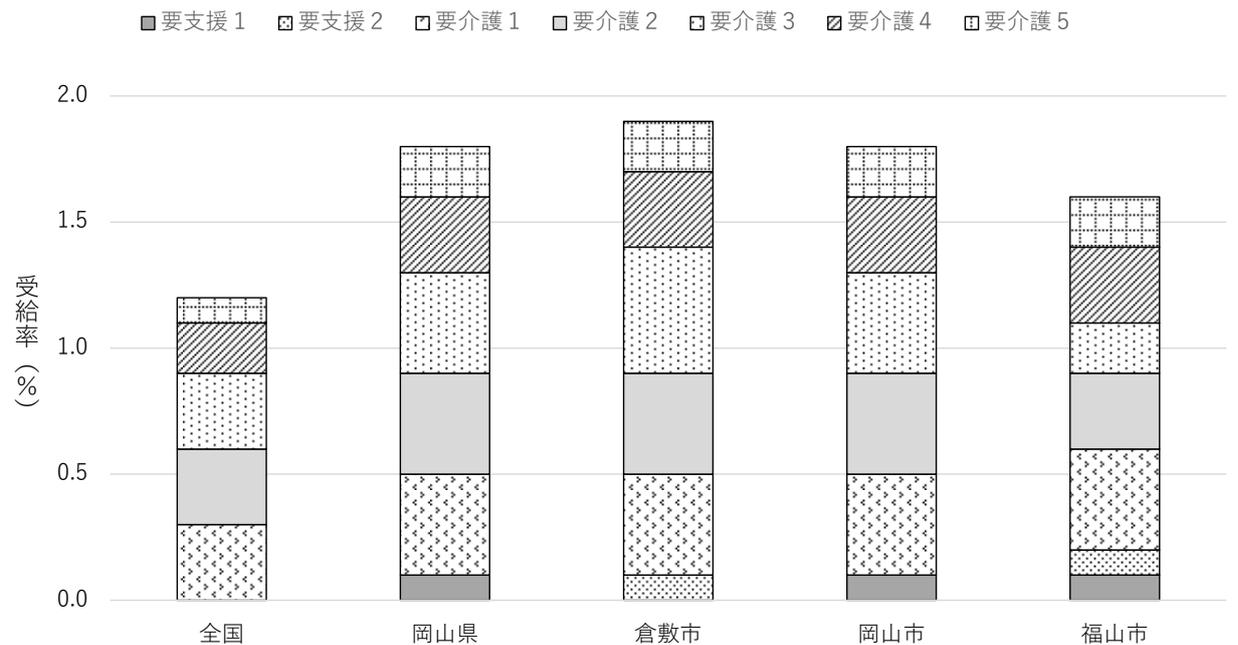


※ 令和5(2023)年3月末時点。

資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

エ 受給率(居住系サービス)(要介護度別)

居住系サービスの受給率をみると、全国及び岡山県の平均や岡山市、福山市を上回っています。

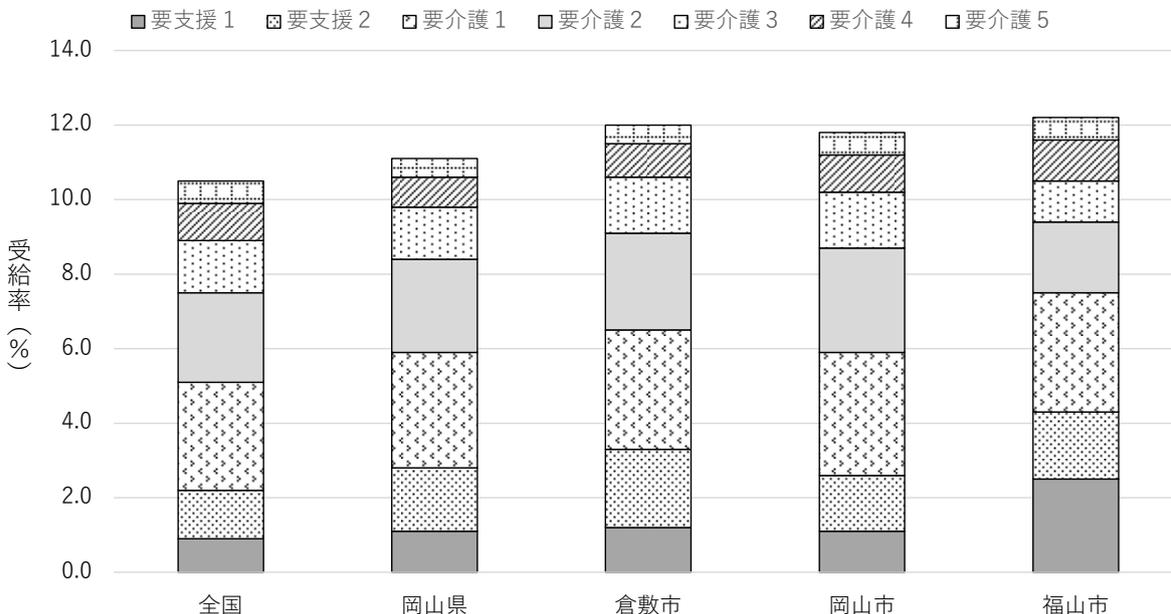


※ 令和5(2023)年3月末時点。

資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

オ 受給率(在宅サービス)(要介護度別)

在宅サービスの受給率をみると、岡山市、福山市とほぼ同水準で、全国及び岡山県の平均を上回っています。

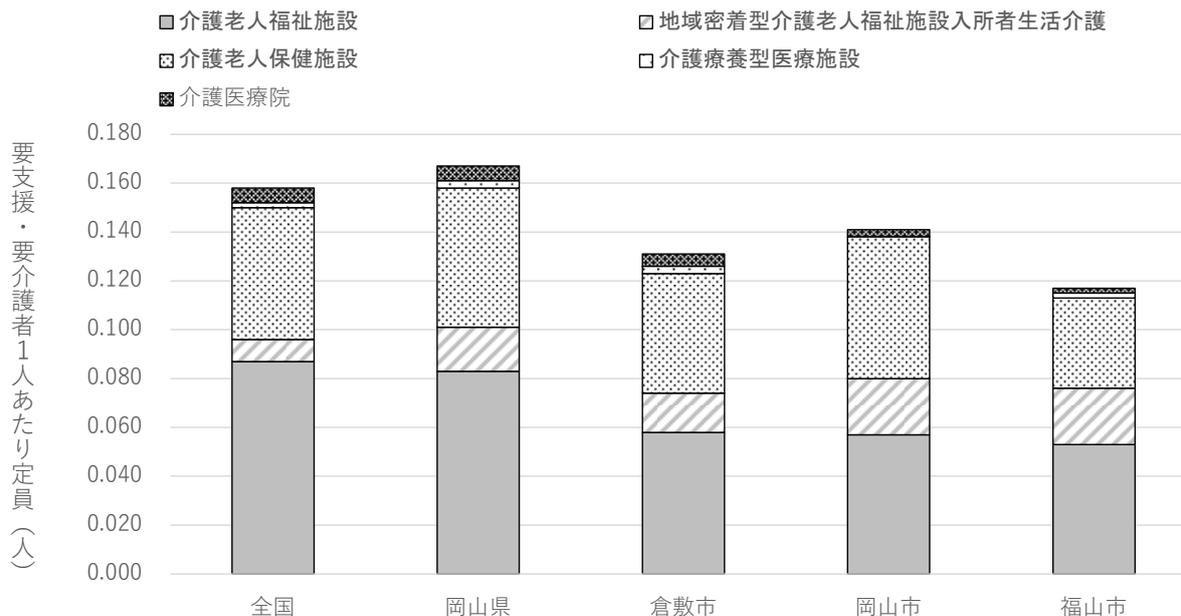


※ 令和5(2023)年3月末時点。

資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

カ 要支援・要介護者1人あたり定員(施設サービス別)

要支援・要介護者1人あたりの施設サービスの定員をみると、全国、岡山県の平均や岡山市を下回る一方、福山市を上回る水準になっています。

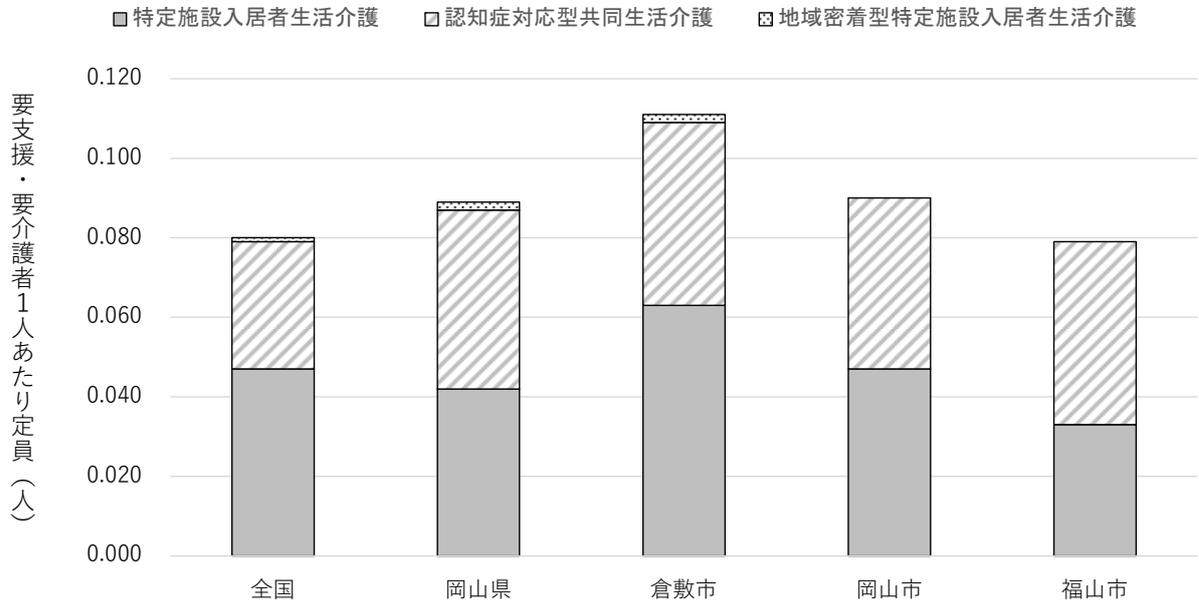


※ 令和5(2023)年3月末時点。

資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

キ 要支援・要介護者1人あたり定員(居住系サービス別)

要支援・要介護者1人あたりの居住系サービスの定員をみると、全国及び岡山県の平均や岡山市、福山市を大きく上回っています。



※ 令和4(2022)年時点。

資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

ク 特別養護老人ホーム入所申込者等の状況

特別養護老人ホーム入所申込者等の状況は、以下のとおりです。

(ア) 入所申込者数(入所施設別)

(単位:人)

区 分		令和2年4月1日	令和3年4月1日	令和4年4月1日
入所申込者		2,133	2,029	1,986
現在の 入所施設 内訳	在宅	864	809	842
	医療機関	447	427	365
	介護医療院等	50	62	69
	老人保健施設	379	373	364
	特定施設	137	129	121
	グループホーム	256	229	225

※入所申込者数は、倉敷市の被保険者の数であって重複申込を除く実人数。

(イ) 要介護3～5の入所申込者数

(単位:人)

区 分		令和2年4月1日	令和3年4月1日	令和4年4月1日
要介護3～5		1,684	1,648	1,621
	(内)在宅	627	610	645

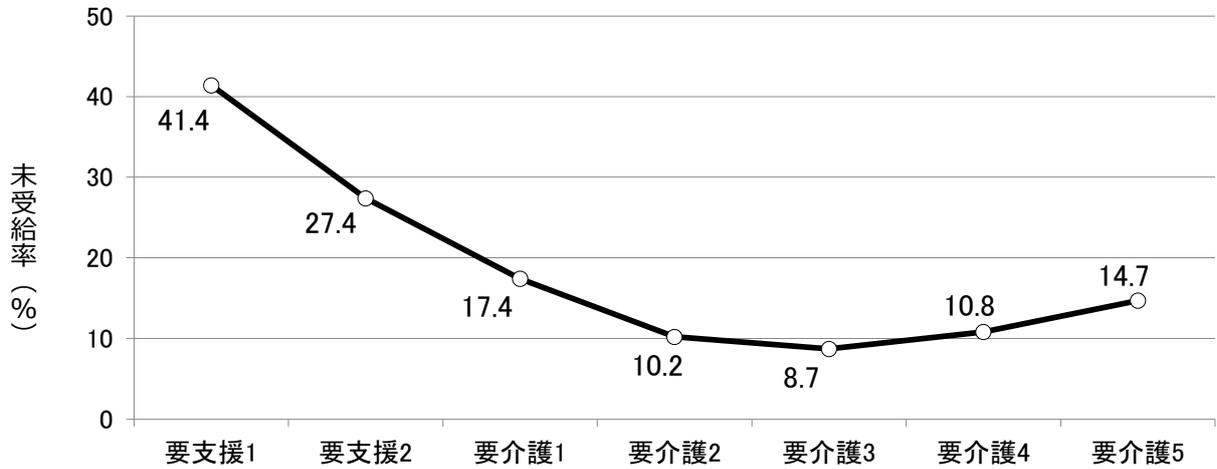
※(参考) 施設数・定員・入所者数

(単位:人)

区 分	令和2年4月1日	令和3年4月1日	令和4年4月1日
施 設 数	40施設	41施設	41施設
定 員	2,104	2,133	2,133
入 所 者 数	2,051	2,074	2,087

ケ 要介護度別にみたサービス未受給率

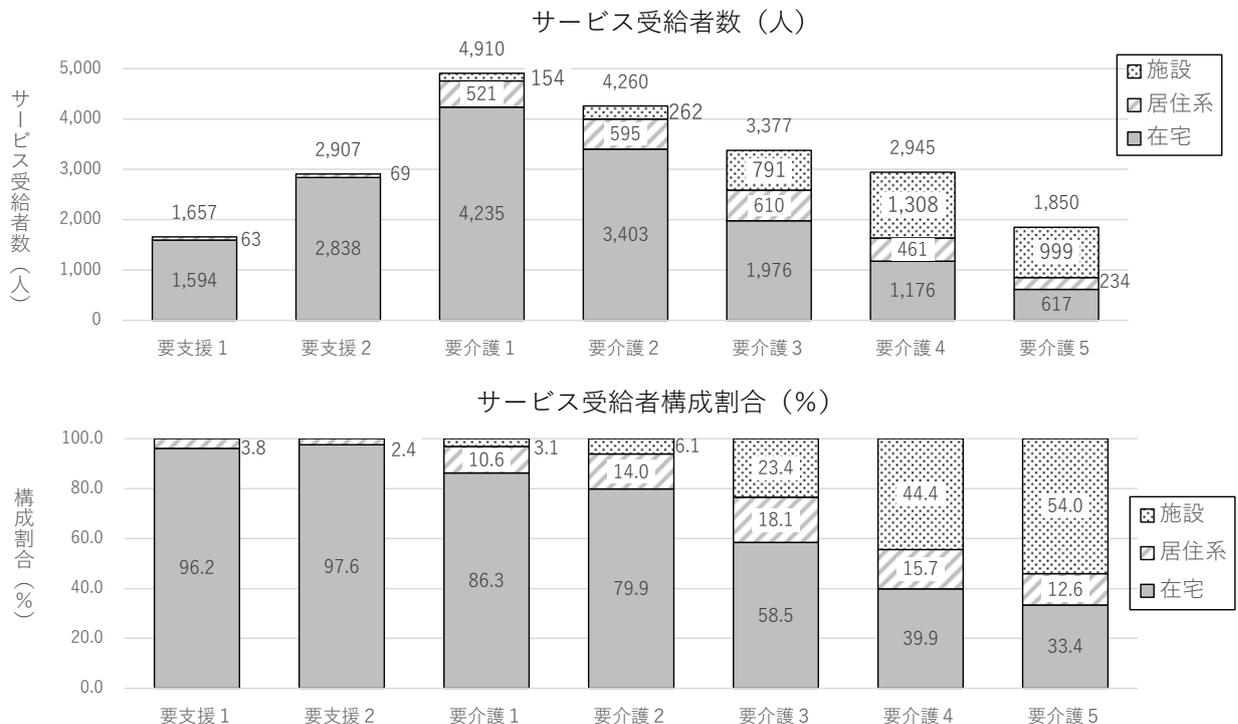
令和4(2022)年9月の介護サービス未受給率は、「要支援1」が41.4%と最も高く、次いで「要支援2」27.4%、「要介護1」17.4%の順となっています。



資料：要介護認定データ(令和4(2022)年9月)、給付データ(令和4(2022)年9月)をもとに作成

コ 要介護度別にみた種別サービス受給者数及び構成割合

サービス受給者数を要介護度別にみると、要介護1が4,910人と最も多くなっています。また、要介護度が重くなるにつれて、施設サービス受給者の割合が高くなっており、要介護5では54.0%を占めています。

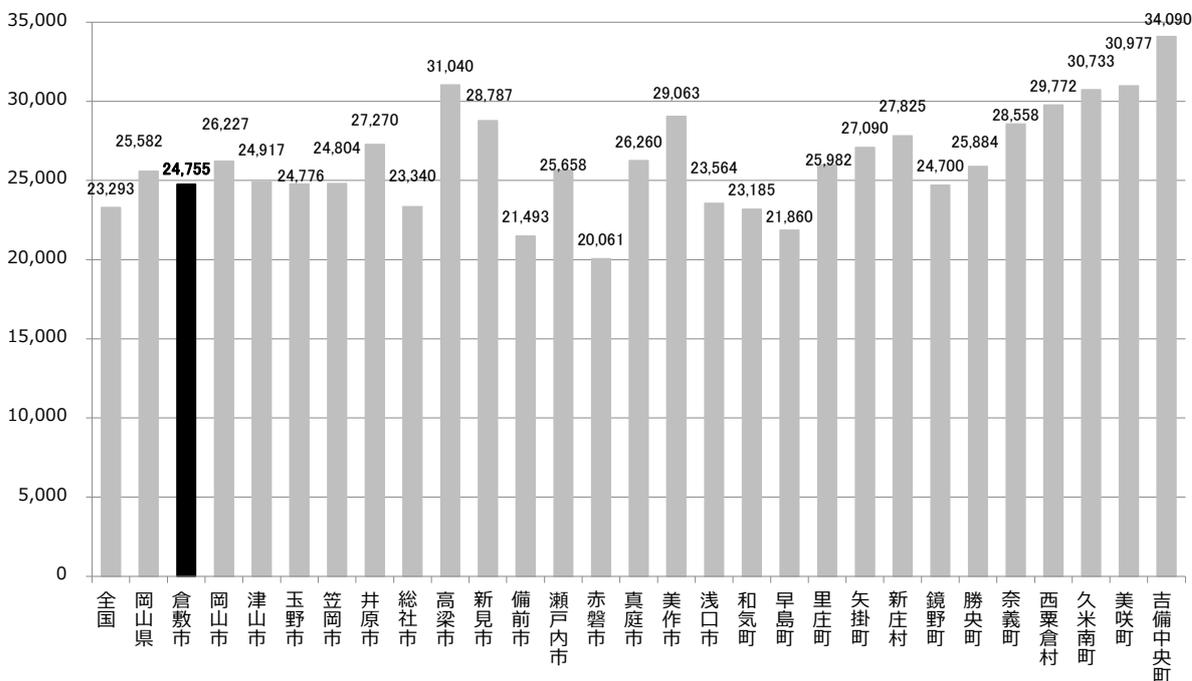


※ 令和5(2023)年3月末時点。認定者には第2号の認定者を含んでいる。

資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

カ 第1号被保険者1人あたり給付月額

令和4(2022)年3月末時点の第1号被保険者1人あたり保険給付月額は24,755円で、全国平均よりは高く、県内27市町村の中では低い方から8番目となっています。

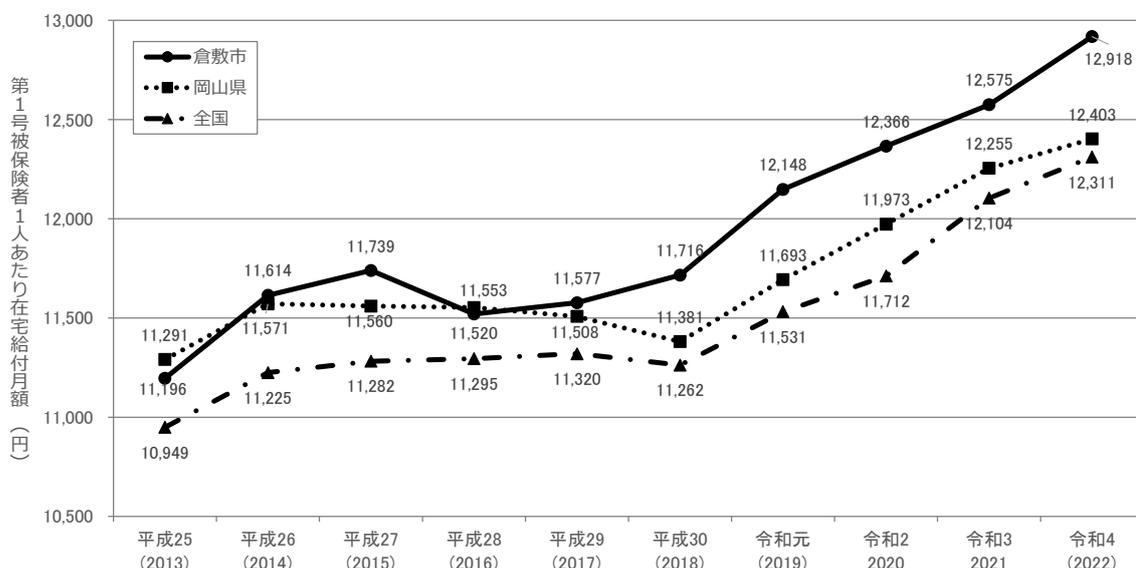


※ 令和4(2022)年3月末時点。

資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

シ 第1号被保険者1人あたり給付月額の推移(在宅サービス)

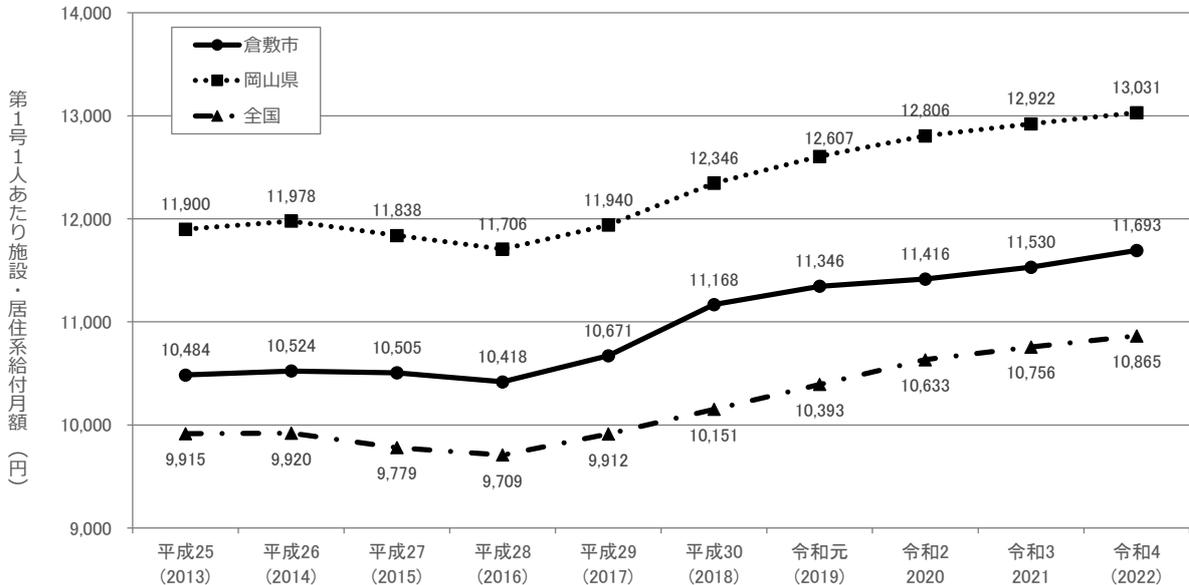
本市の給付月額は、平成28(2016)年3月の介護予防・日常生活支援総合事業への移行の影響があるものの、それ以降は年々増加しており、令和4(2022)年の第1号被保険者1人あたりの在宅サービス給付月額は「倉敷市」12,918円、「岡山県」12,403円、「全国」12,311円となっています。



資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

ス 第1号被保険者1人あたり給付月額推移(施設・居住系サービス)

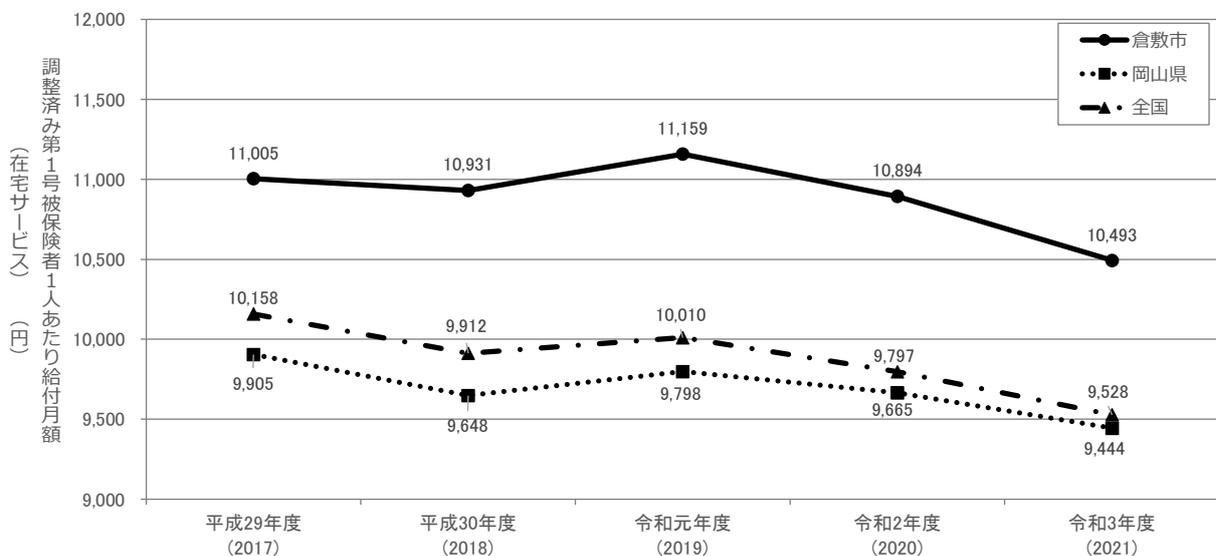
本市の第1号被保険者1人あたりの施設・居住系サービス給付月額は、全国や岡山県の平均と同様、平成29(2017)年以降増加傾向となっており、令和4(2022)年時点では「倉敷市」11,693円、「岡山県」13,031円、「全国」10,865円となっています。



資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

セ 調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額推移(在宅サービス)

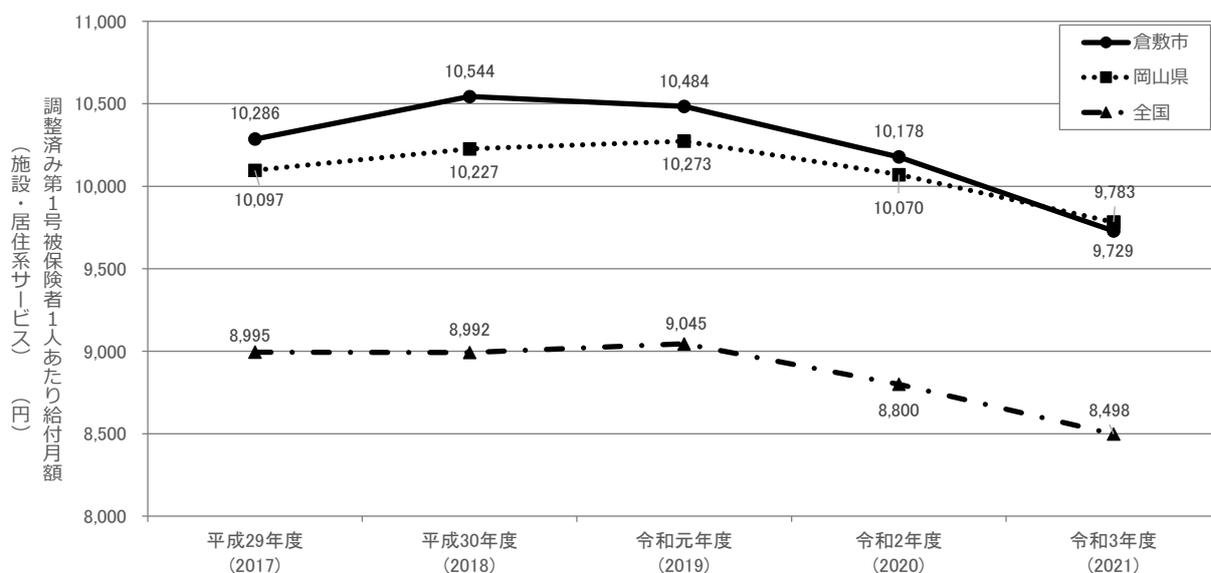
本市の調整済み第1号被保険者1人あたり在宅サービス給付月額は、全国や岡山県の平均と同様、減少傾向から令和元(2019)年度に増加した後、令和2(2020)年度から再び減少に転じており、令和3(2021)年度末時点では、「倉敷市」10,493円、「全国」9,528円、「岡山県」9,444円となっています。



資料：厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システム

ソ 調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額推移(施設・居住系サービス)

本市の調整済み第1号被保険者1人あたり施設・居住系サービス給付月額は、全国や岡山県の平均より高い水準で推移していましたが、平成30(2018)年度をピークに減少に転じ、令和3(2021)年度末には岡山県の平均より低くなり、「倉敷市」9,729円、「全国」8,498円、「岡山県」9,783円となっています。



資料:厚生労働省:地域包括ケア「見える化」システム

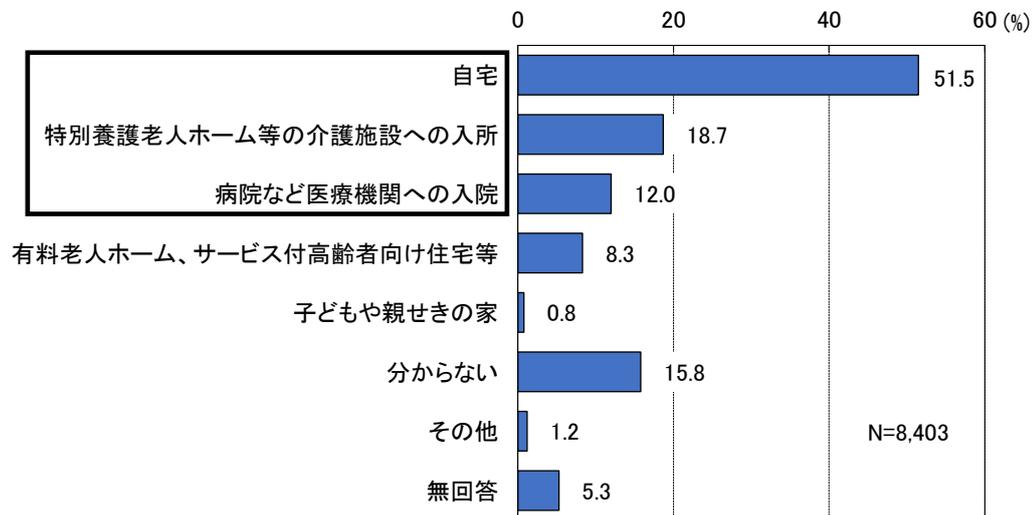
5 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果等からみる高齢者の意識や実態

(1) 高齢者の意識等について

ア 医療や介護の希望(本人の希望)

自分が医療・介護が必要になった場合の希望として最も多かったのは「自宅」で51.5%、2位は「特別養護老人ホーム等の介護施設への入所」で18.7%、3位は「病院など医療機関への入院」で12.0%となっています。

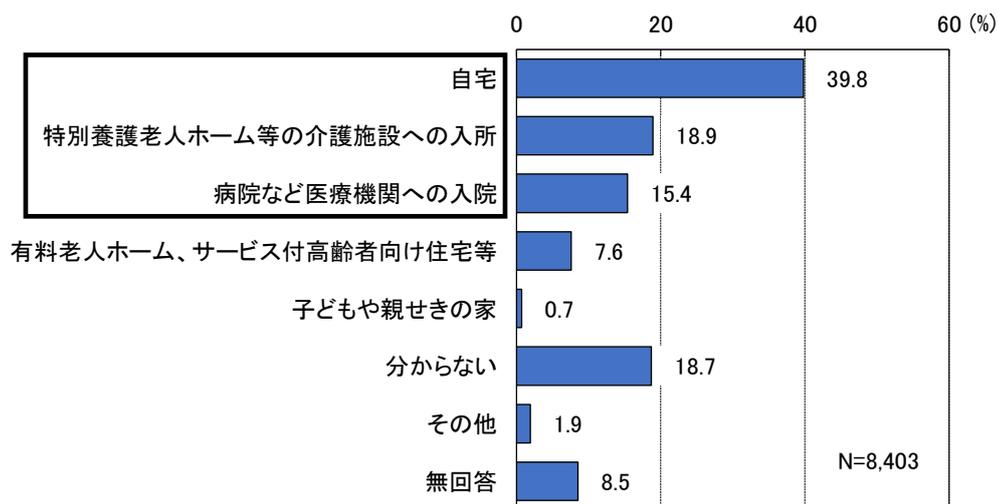
図1 医療や介護が必要になった時、主にどこで過ごしたいか(複数回答可)



イ 医療や介護の希望(家族の希望)

家族が医療・介護が必要になった場合の希望として最も多かったのは「自宅」で39.8%、2位は「特別養護老人ホーム等の介護施設への入所」で18.9%、3位は「病院など医療機関への入院」で15.4%となっています。

図2 家族が医療や介護が必要になった時、主にどこで過ごしてもらいたい(複数回答可)

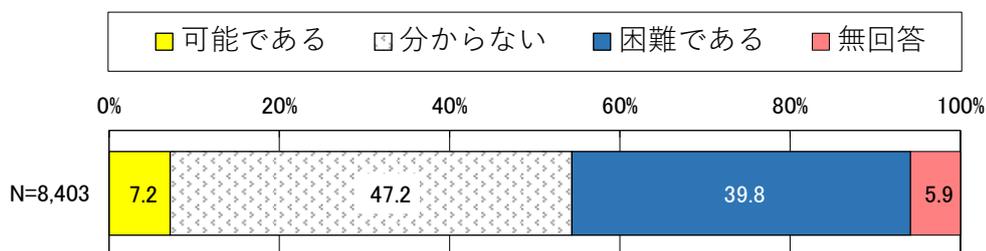


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

ウ 最期まで自宅で療養が可能と思えるか

自宅で最期まで療養することは困難であると39.8%の人が回答し、可能であると回答した人は7.2%となっています。

図3 最期まで自宅で療養が可能と思えるか



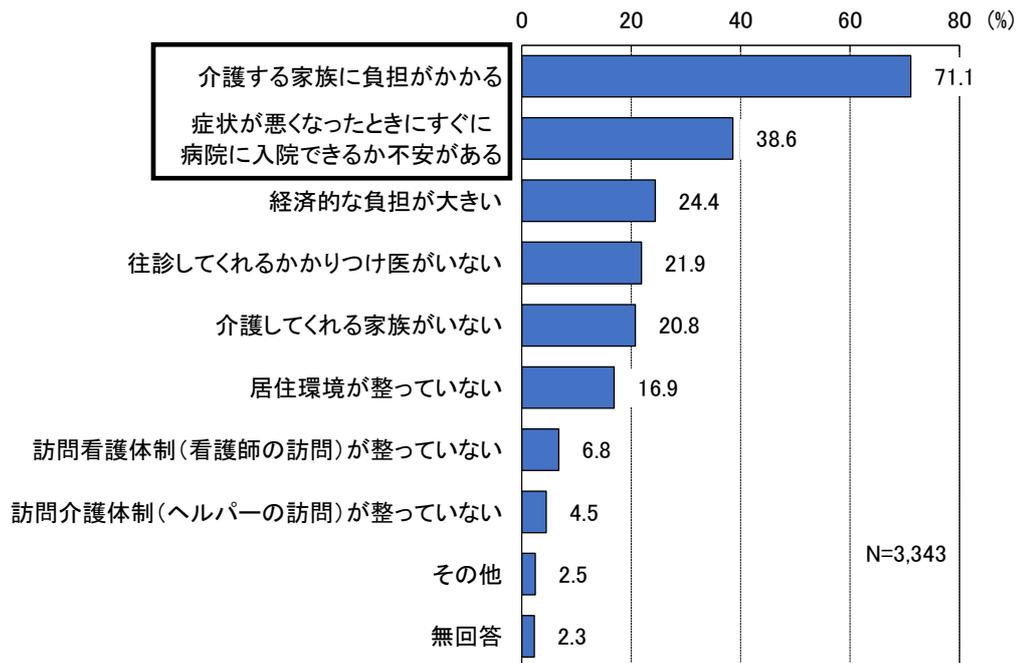
※ 回答割合については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答割合の合計が100.0とならない場合があります。以下同じ。

資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

エ 自宅で療養することが困難な理由

自宅で最期まで療養することは困難であると回答した人に、その理由を尋ねたところ、「介護する家族に負担がかかる」という回答が71.1%と、最も多くなっています。次いで、「症状が悪くなったときにすぐに病院に入院できるか不安がある」という回答が38.6%となっています。

図4 自宅で療養することが困難な理由(3つまで回答可)

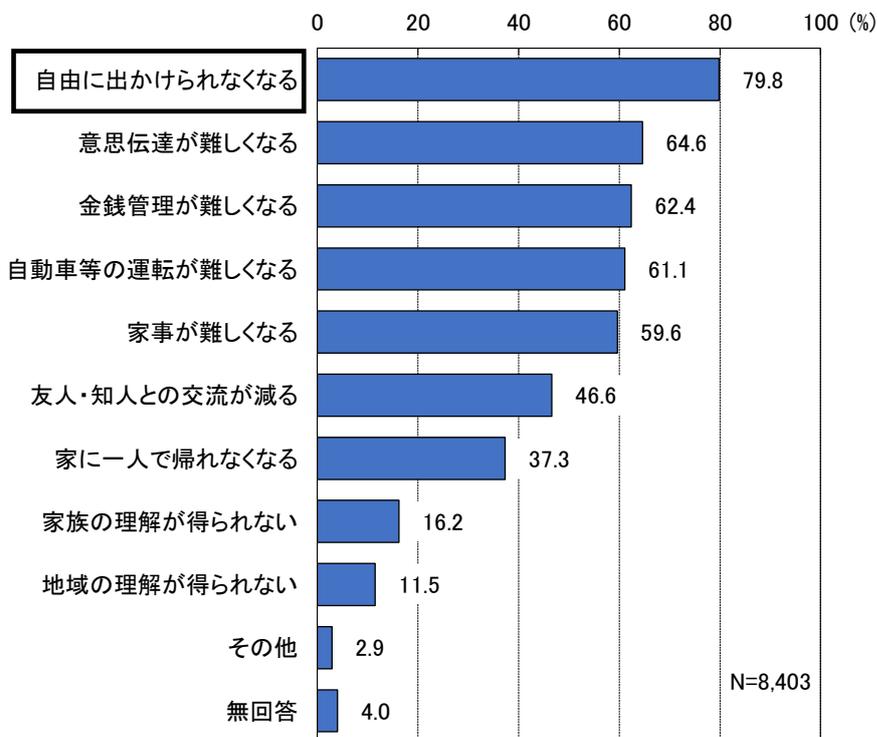


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

オ 自分や家族が認知症になった場合に感じる不安

自分や家族が認知症になったとしたら、どんなことに不安を感じると思うか尋ねたところ、「自由に出かけられなくなる」という回答が79.8%と、最も多くなっています。

図5 自分や家族が認知症になった場合に感じる不安(複数回答可)

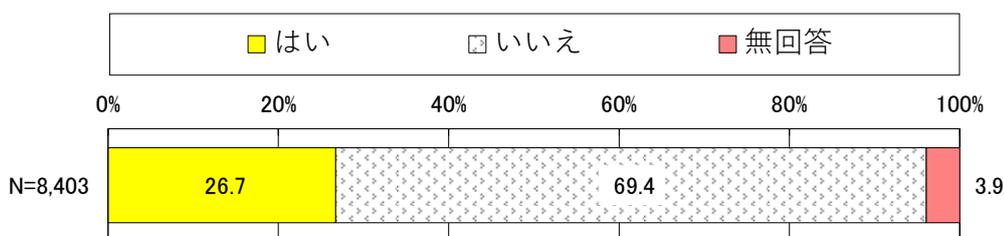


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

カ 認知症の相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人の割合は26.7%、知らないと回答した人の割合は69.4%となっています。

図6 認知症に関する相談窓口を知っているか

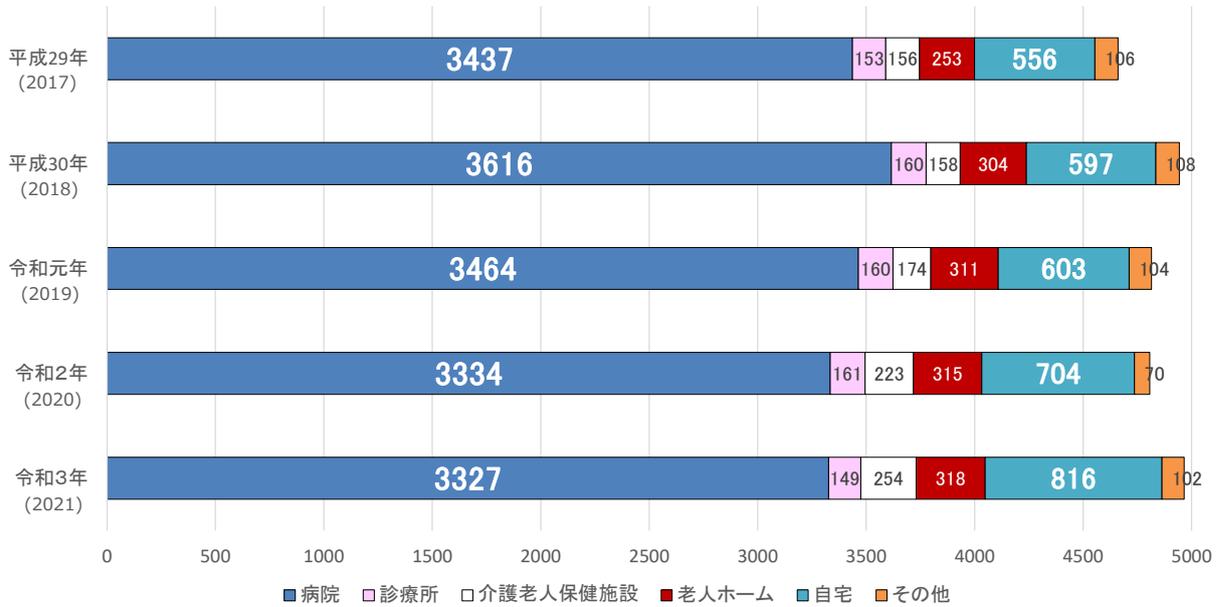


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

キ 死亡場所別死亡数の推移

平成29(2017)年から令和3(2021)年までの5年間の推移を見ると、病院での死亡数は減少傾向、施設や自宅(※)での死亡数は増加傾向にあります。

図7 死亡場所別死亡数(経年比較)



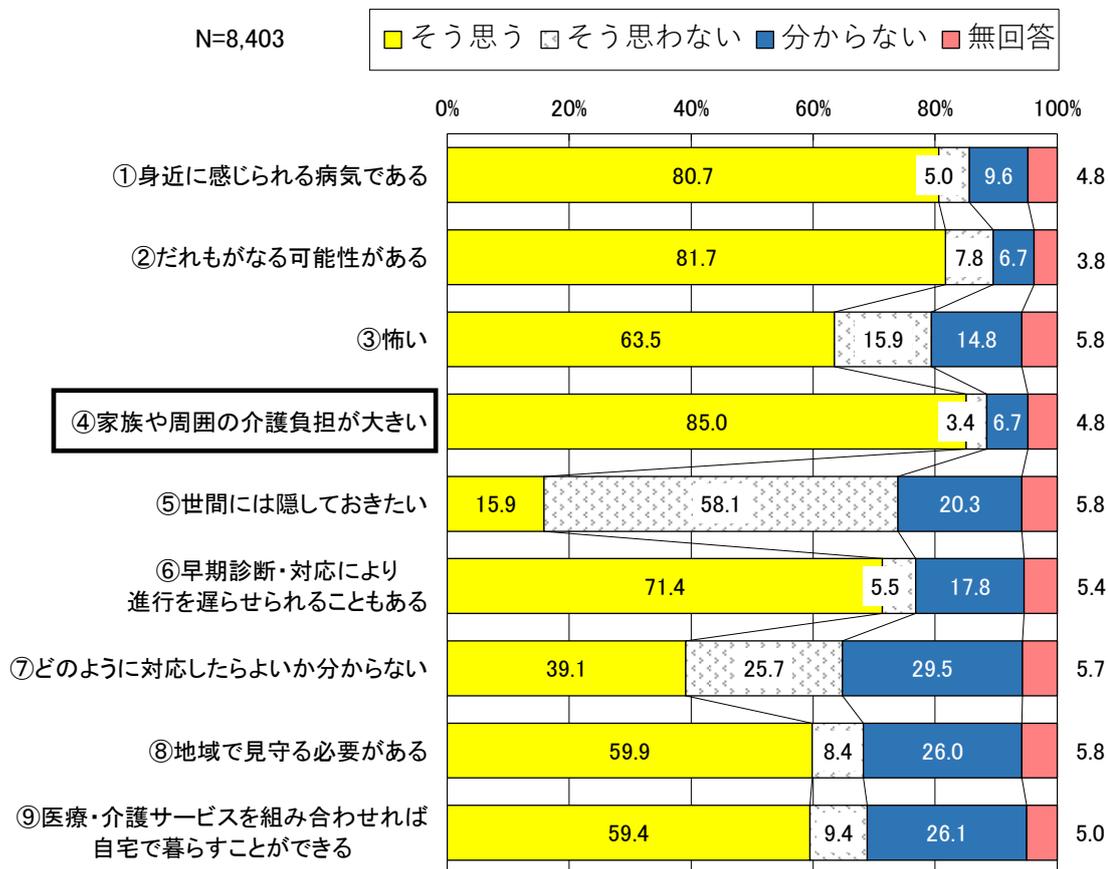
※自宅については、グループホーム、サービス付高齢者向け住宅を含む。

資料: 倉敷市保健衛生年報より作成

ク 認知症に対するイメージ

認知症に対するイメージとして、「家族や周囲の負担が大きい」と捉えている割合は85.0%となっています。

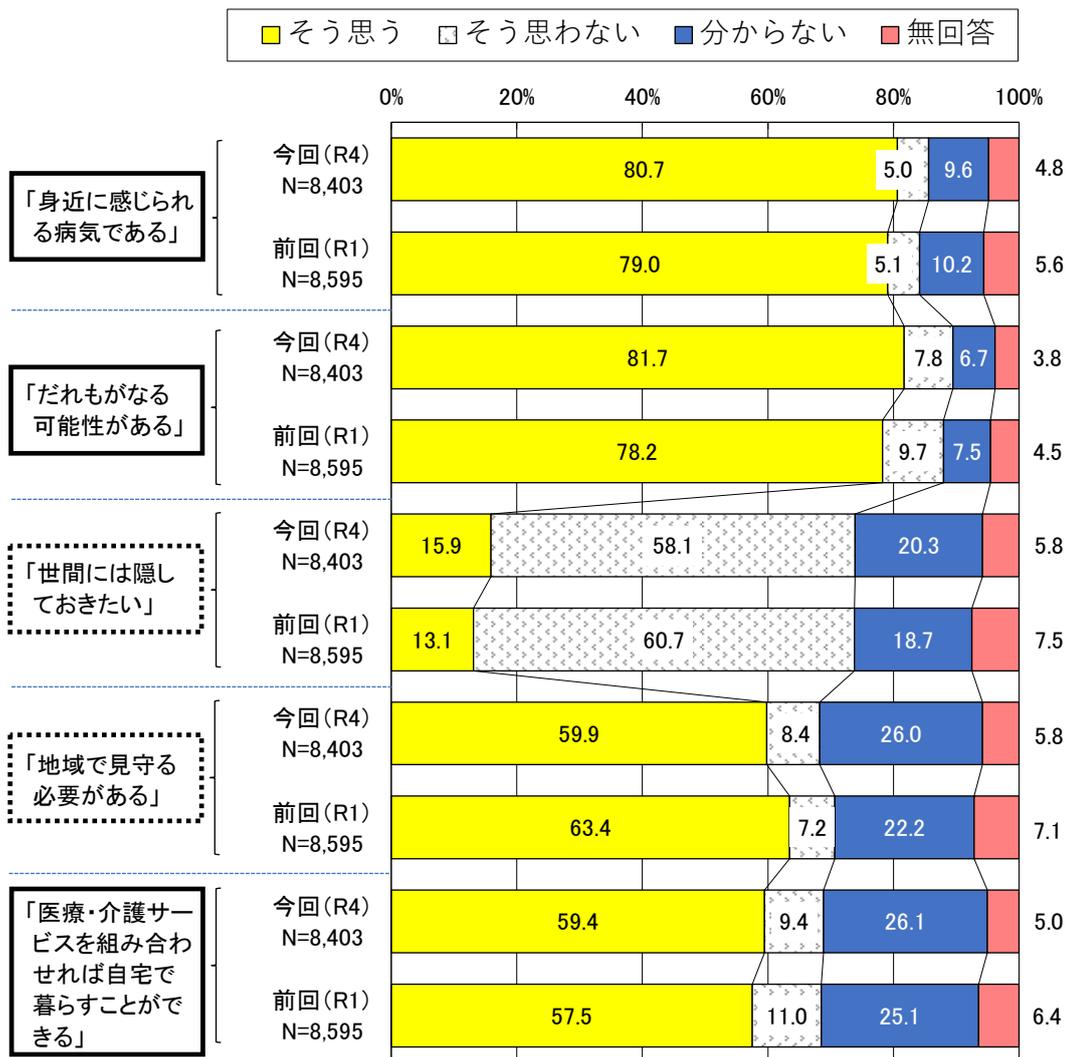
図8 認知症に対してどのようなイメージを持っているか



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

また、令和元(2019)年の同調査時と同じ項目の「そう思う」と答えた回答の割合を比較すると、「身近に感じられる病気である」(79.0%→80.7%)、「だれもがなる可能性がある」(78.2%→81.7%)、「世間には隠しておきたい」(13.1%→15.9%)、「医療・介護サービスを組み合わせれば自宅で暮らすことができる」(57.5%→59.4%)の4項目は割合が高くなり、「地域で見守る必要がある」(63.4%→59.9%)については割合が低くなっています。

図9 認知症のイメージについて(前回調査結果との比較)



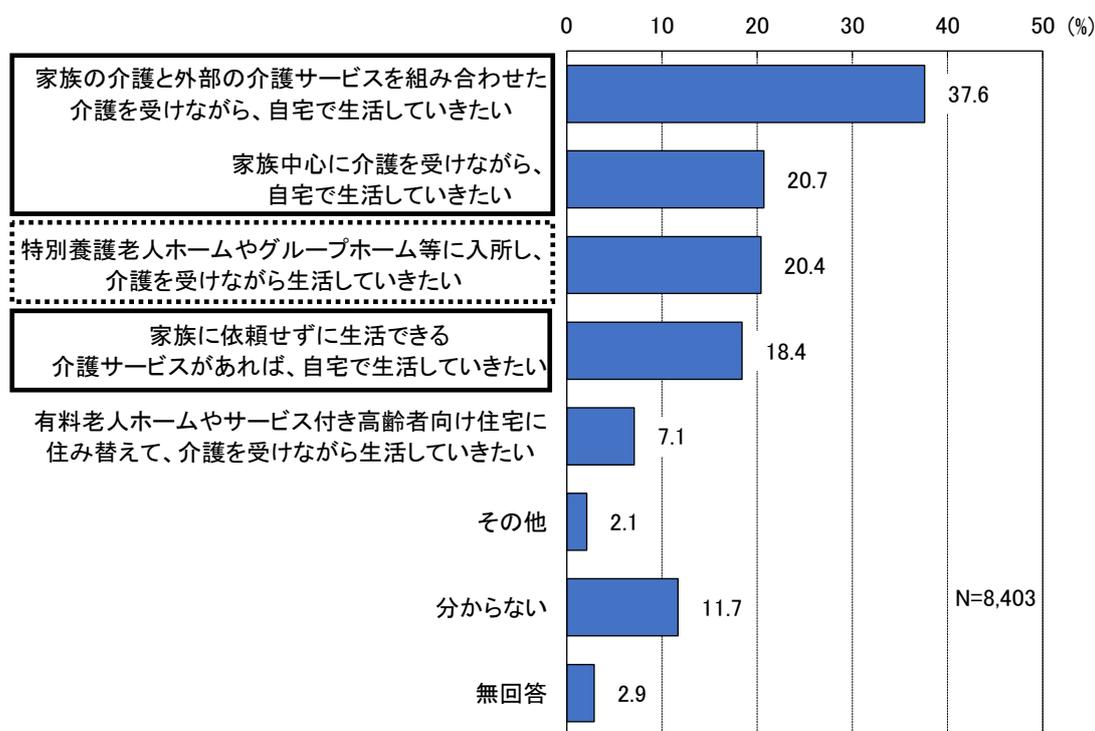
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

ケ 認知症になった場合の暮らし方の希望

認知症になった場合の暮らし方の希望について最も多かったのは、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせた介護を受けながら、自宅で生活していきたい」で37.6%、次いで、「家族中心に介護を受けながら、自宅で生活していきたい」が20.7%、「特別養護老人ホームやグループホーム等に入所し、介護を受けながら生活していきたい」が20.4%、「家族に依頼せずに生活できる介護サービスがあれば、自宅で生活していきたい」が18.4%と続いています。

認知症になっても、何らかの介護サービスを受けながら自宅で生活したいと希望している人が多いことがわかります。

図10 認知症になったら、どのように暮らしたいと思うか(複数回答可)

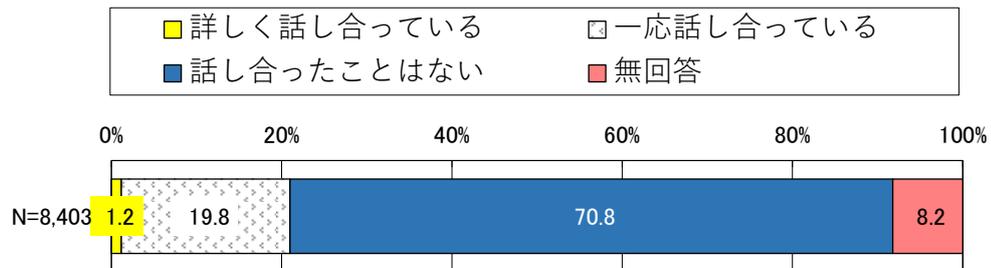


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

コ 終末期における医療・療養についての話し合いの経験の有無

終末期における医療・療養について、家族や医療介護関係者と「詳しく話し合っている」と回答した人の割合は1.2%、「一応話し合っている」と回答した人の割合は19.8%で、「話し合ったことはない」と回答した人が70.8%と多くなっています。

図11 終末期における医療・療養について、家族や医療介護関係者と話し合ったことがあるか

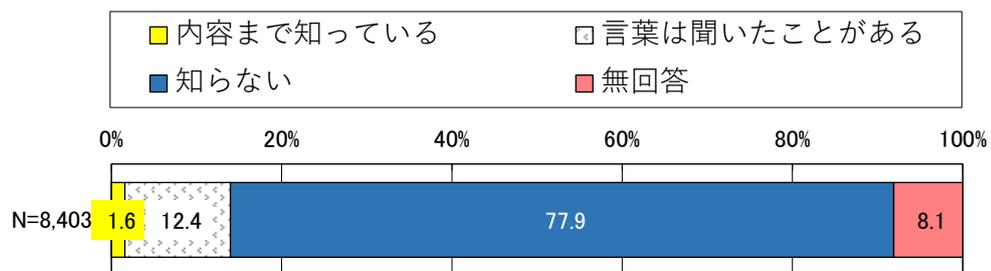


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

サ ACP(アドバンス・ケア・プランニング)¹や人生会議の認知度

ACPや人生会議について「内容まで知っている」と回答した人の割合は1.6%、「言葉は聞いたことがある」と回答した人の割合は12.4%で、「知らない」と回答した人が77.9%と多くなっています。

図12 ACPや人生会議の認知度



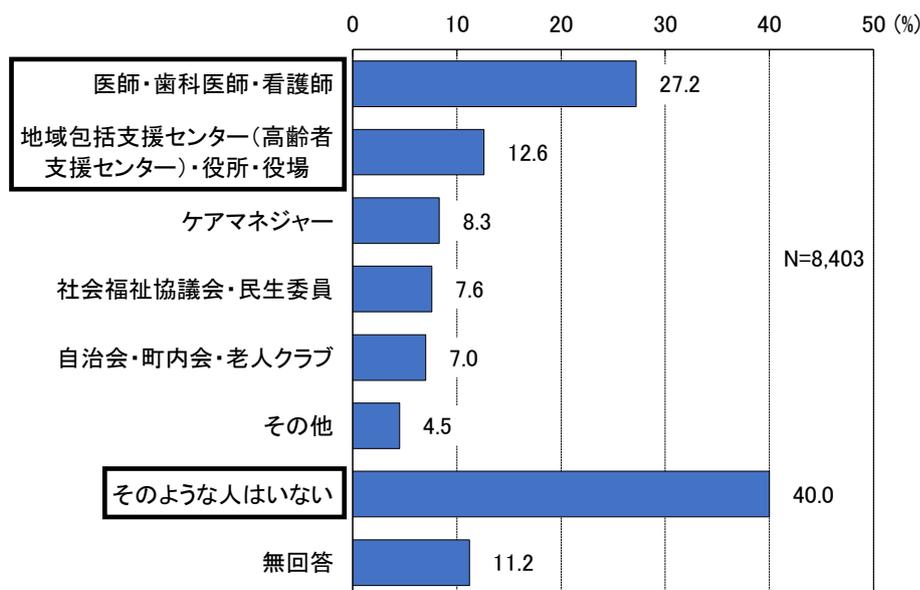
資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

¹ ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは、将来に備えて、本人やその家族と医療・介護従事者等が前もって、具体的な治療・療養について話し合う過程のことで、人生会議ともいいます。

シ 相談相手・相談先

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が40.0%と最も多くなっており、身近な地域の相談窓口である地域包括支援センター(高齢者支援センター)・役所・役場については12.6%と、医師・歯科医師・看護師(27.2%)よりも低くなっています。

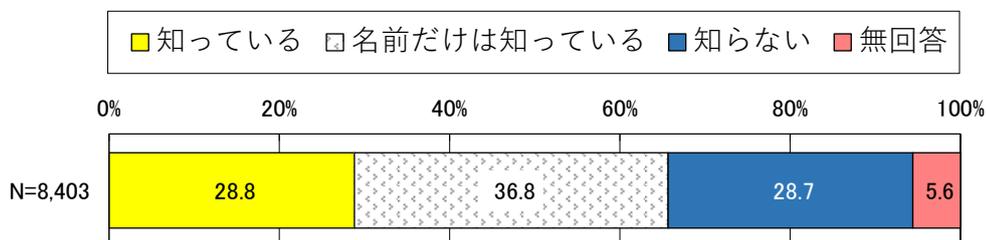
図13 何かあったときに相談する相手(複数回答可)



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

また、高齢者支援センターの認知度は、「知っている」「名前だけは知っている」を合わせると65.6%となっています。

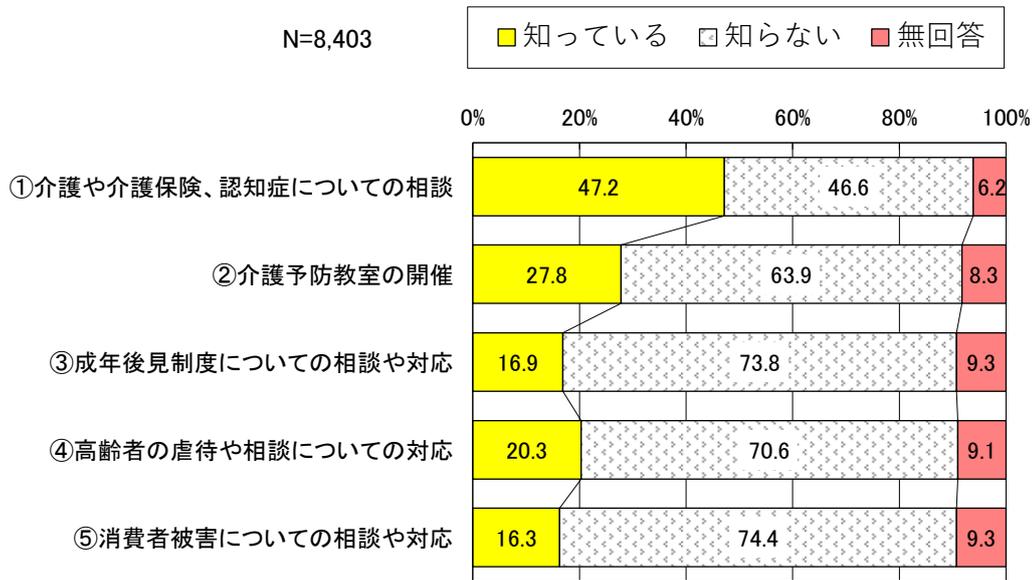
図14 高齢者支援センターを知っているか



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(参考)

図15 高齢者支援センターは次のことを行っているが、知っているか



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(2) 高齢者が有するリスクについて

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査項目のうち、国が必須項目として設定した、「2 からだを動かすことについて」「3 食べることについて」「4 毎日の生活について」「8 健康について」は、それぞれ要介護度の悪化につながるリスクの有無を判定するための設問となっています。すなわち、「からだを動かすことについて」は運動器機能の低下・転倒リスク、閉じこもり傾向を、「食べることについて」は低栄養の傾向と口腔機能の低下を、「毎日の生活について」は認知機能の低下とIADL²の把握を、「健康について」はうつ傾向の把握をそれぞれ目的としています。

そこで、リスクの発生状況については、上記4つの設問に対応した4つの項目「ア からだを動かす」「イ 食べる」「ウ 毎日の生活」「エ 健康」ごとに分析を行いました。

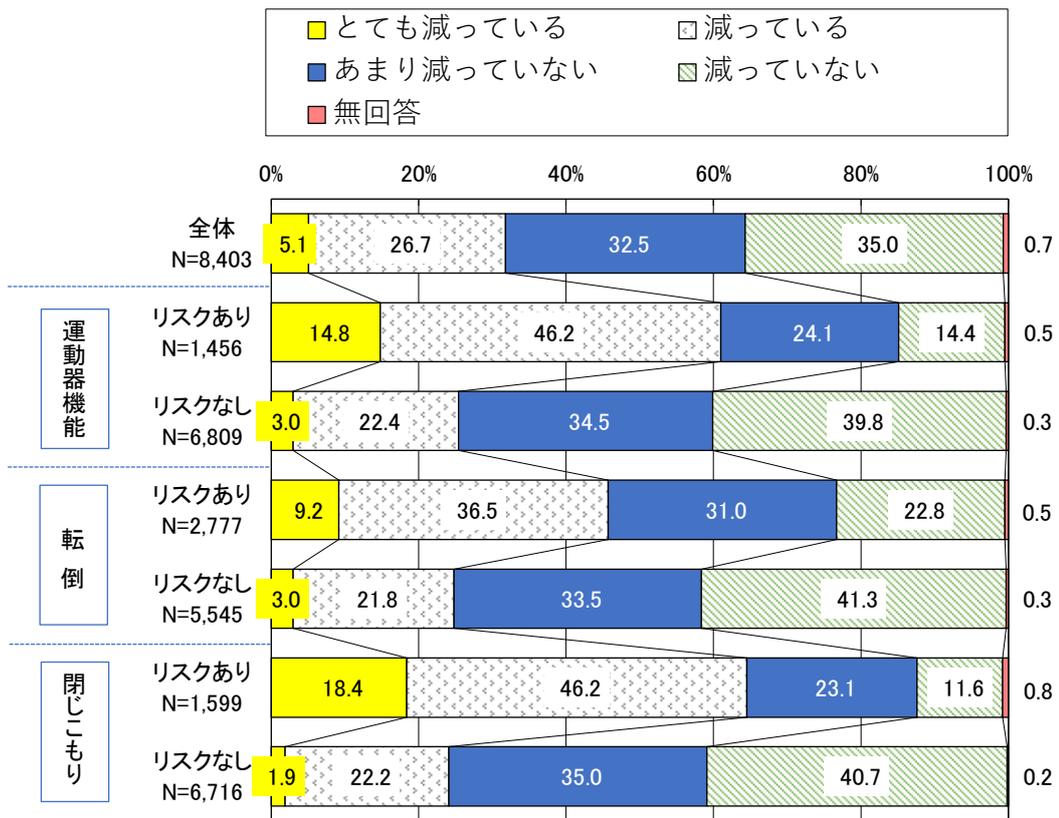
ア からだを動かす

各リスクの有無と外出回数減少との関係を見ると、外出回数が「とても減っている」「減っている」と回答した高齢者は、運動器機能低下リスク者(61.0%)、閉じこもりリスク者(64.6%)で半数を大きく超えています(P51 図16)。

運動器の機能低下、転倒リスク、閉じこもり傾向が外出回数の減少につながっているのか、それとも、外出回数の減少が運動器機能低下、転倒リスク、閉じこもり傾向の要因となっているのかは本調査結果のみでは検証できませんが、サロンに参加している人の方が閉じこもりリスク者の割合が低くなっている(P51 図17)ことも考えると、例えば、サロンなど地域の通いの場の充実等を通じて地域で外出を促す取組につなげていくことはできると考えられます。

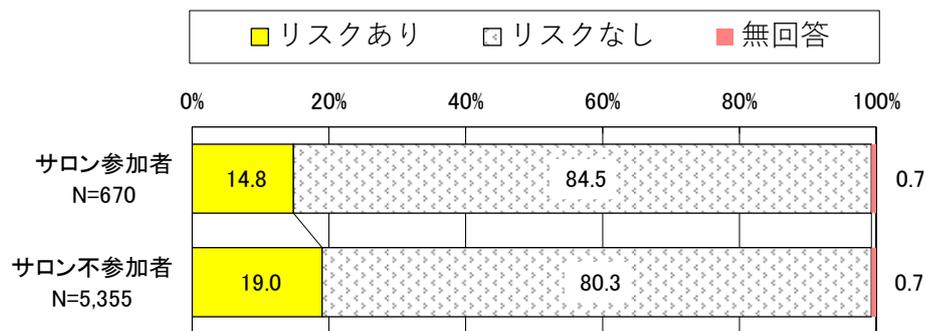
² IADL(Instrumental Activities of Daily Living)とは、手段的日常生活動作とも言われ、電話の使い方、買い物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理など、ADL(Activity of Daily Living:日常生活動作)ではとらえられない高次の生活機能の水準を測定するもので、在宅生活の可能性を検討する場合は、ADLの評価だけでは不十分であり、IADLが重要な指標になるとされています。

図16 各リスクの有無と外出回数減少との関係



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図17 サロン参加の有無と閉じこもりリスクの有無との関係



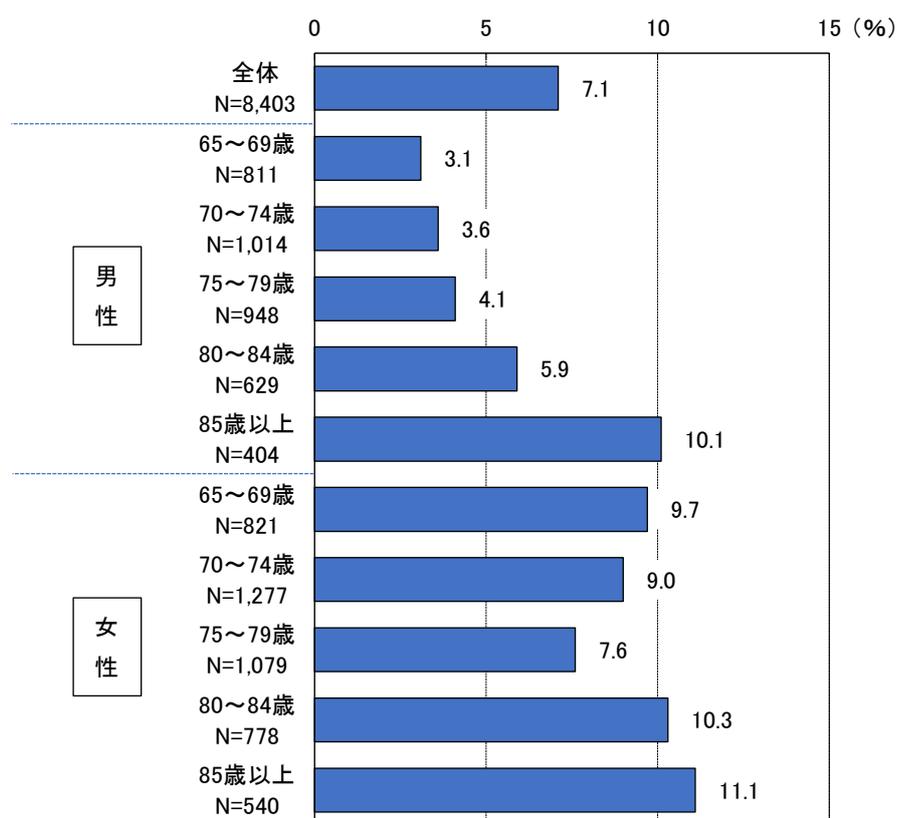
資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

イ 食べる

国の判定基準によれば、身長・体重から算出されるBMI(体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})が18.5以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。

全体で低栄養の疑いのある人(BMI18.5以下)の割合は7.1%となっています。男女別・年齢階級別では、男性は年齢階級が高くなるにつれて徐々に割合が高くなっているのに対し、女性は比較的年齢層の若い高齢者でも割合が高くなっています。

図18 男女別・年齢階級別低栄養の疑いのある人(BMI18.5以下)の割合

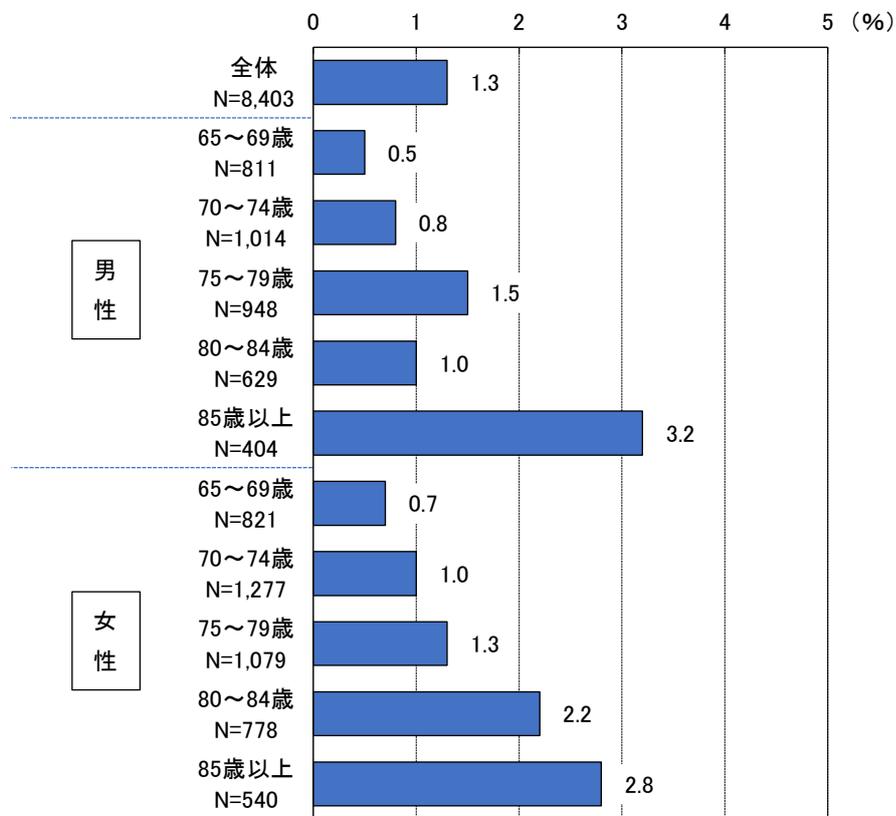


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

また、今回の調査においては、国が示す必須項目(身長・体重を問う設問)に加え、本市では、別途示された「6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか」という説明を追加して調査し、より正確に低栄養のリスクを把握することにしました。

その結果、全体の低栄養リスク者割合は1.3%で、男女別・年齢階級別に見ると、女性は年齢階級が高くなるにつれて徐々に割合が高くなっていくのに対し、男性は85歳以上でリスク者割合が高くなる結果となっています。

図19 男女別・年齢階級低栄養リスク者割合



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

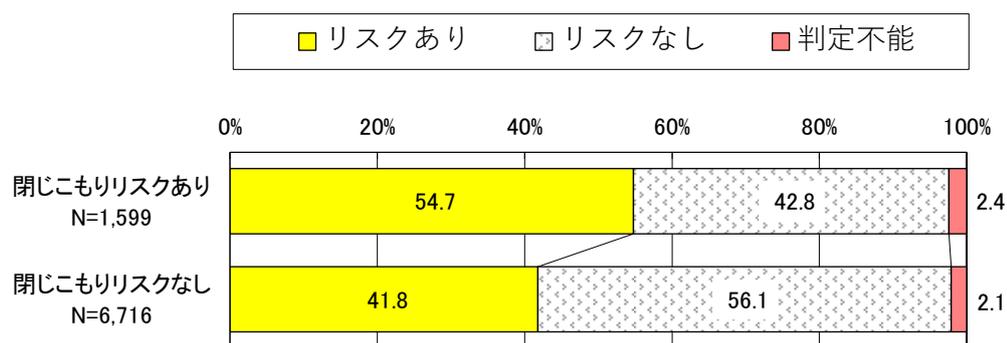
ウ 毎日の生活

(ア) 閉じこもりリスクの有無と認知機能低下リスクとの関係

閉じこもりのリスクの有無別に認知機能低下のリスク者割合をみると、閉じこもりリスクのある人は、ない人に比べて認知機能低下のリスク者割合が高くなっています。

この結果を踏まえると、地域でサロンへの参加を促すなど外出の機会を増やすことなどの対応が、認知機能低下のリスク低減につながると考えられます。

図20 閉じこもりリスクの有無別認知機能低下リスク判定結果



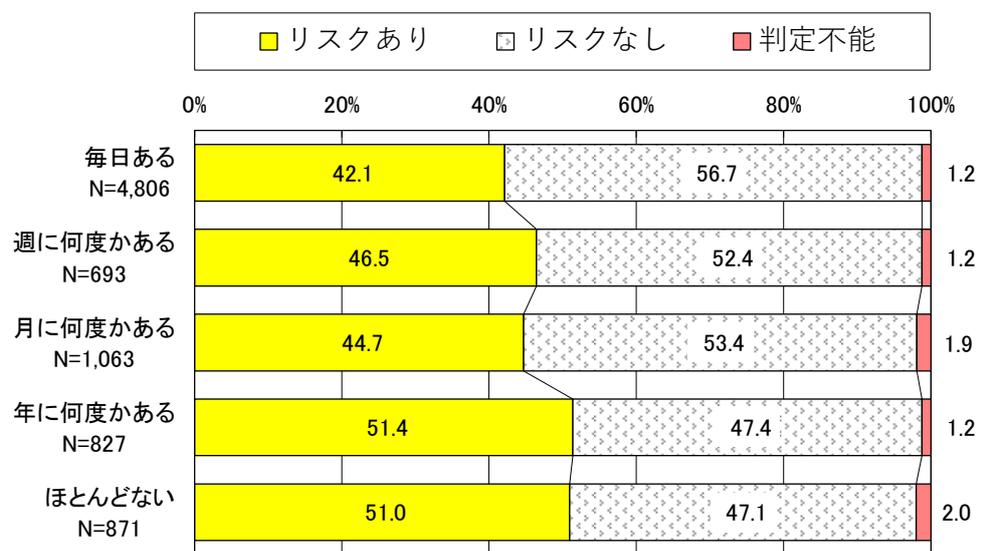
資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(イ) 食事の状況と認知機能低下リスクとの関係

誰かと食事を共にする機会が多い人の方が認知機能低下のリスク者割合が低くなる傾向であり、誰かと食事を共にする機会が「ほとんどない」と回答した人の認知機能のリスク者割合は51.0%と、「毎日ある」と回答した人の割合(42.1%)に比べ8.9ポイント高くなっています。

ひとり暮らし等で、普段、孤食状態にある人も、誰かと食事を共にする機会を持つことで認知機能低下リスクの低減効果をもたらすことが期待できます。

図21 食事の状況別認知機能低下リスク判定結果

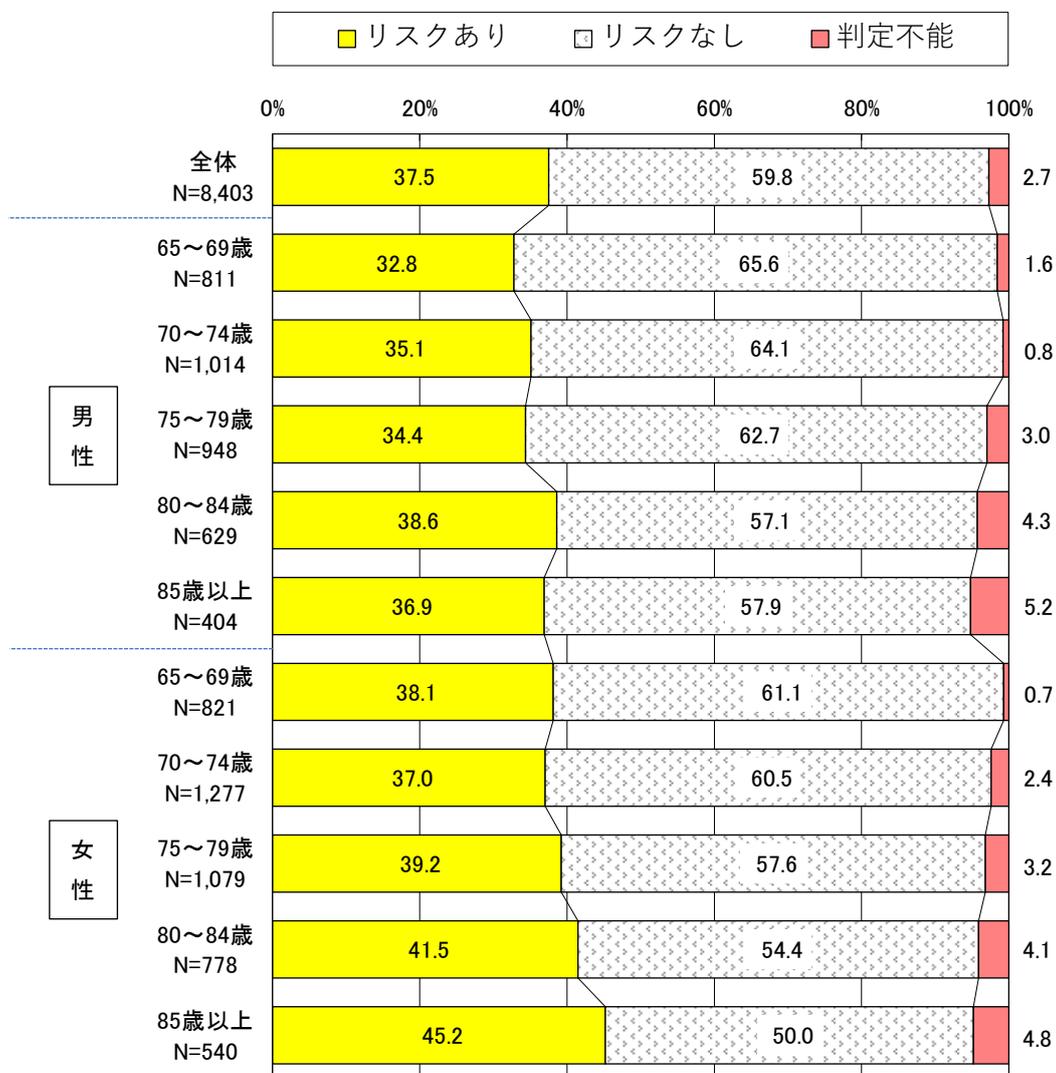


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

工 健康

うつリスク判定の結果は次のとおりで、男女とも年齢階級によるばらつきは見られますが、年齢による分布特性は把握しづらい結果となっています。

図22 男女別・年齢階級別うつリスク判定結果

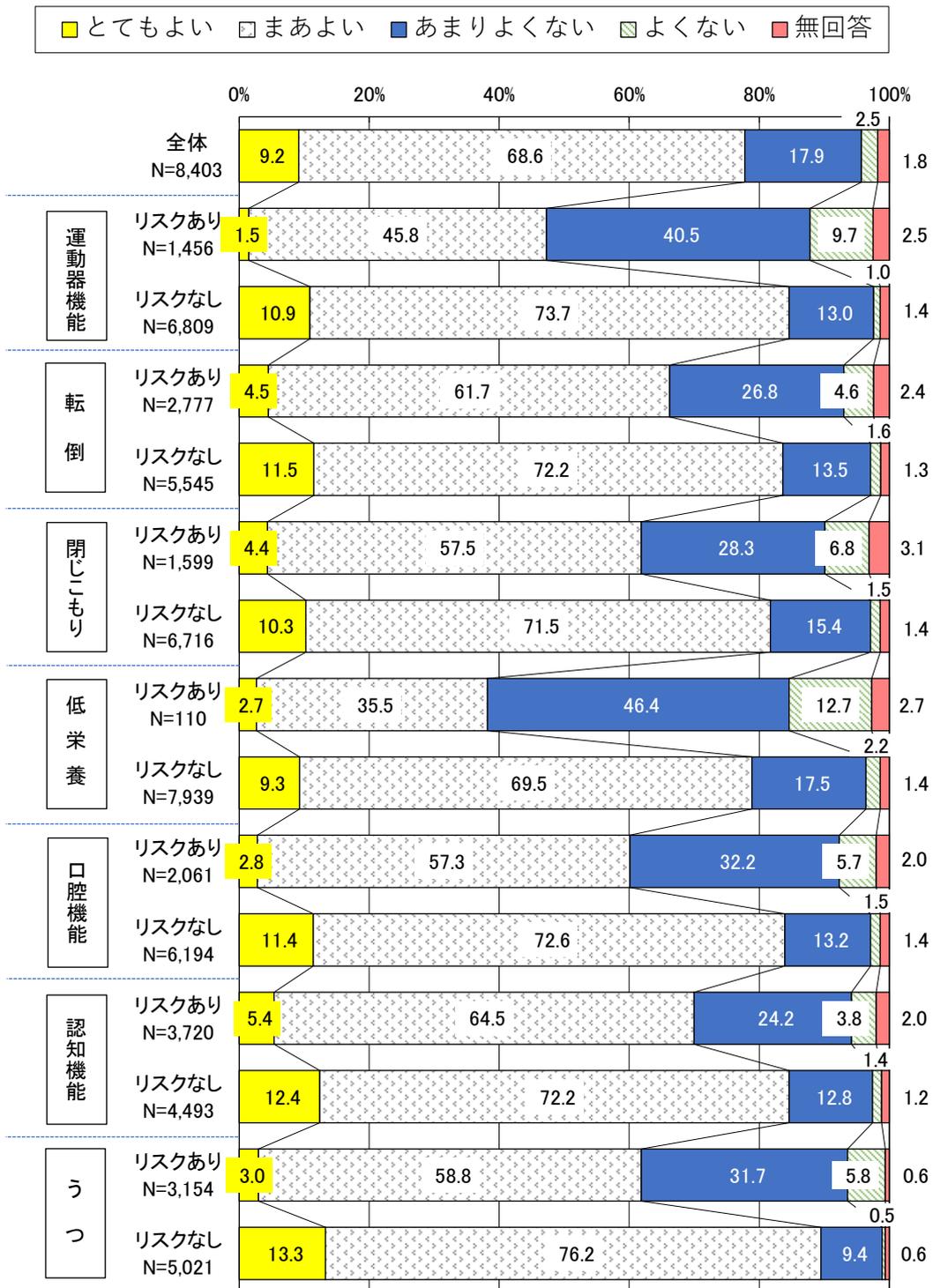


資料:倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

オ 各リスクの有無と主観的健康感との関係

これまで見てきた各リスクの有無別に主観的健康感の状況を見ると、すべての分野について、リスクのある人に比べリスクのない人の方が主観的健康感がよい人の割合が高いという結果となっています。

図23 各リスクの有無別主観的健康感

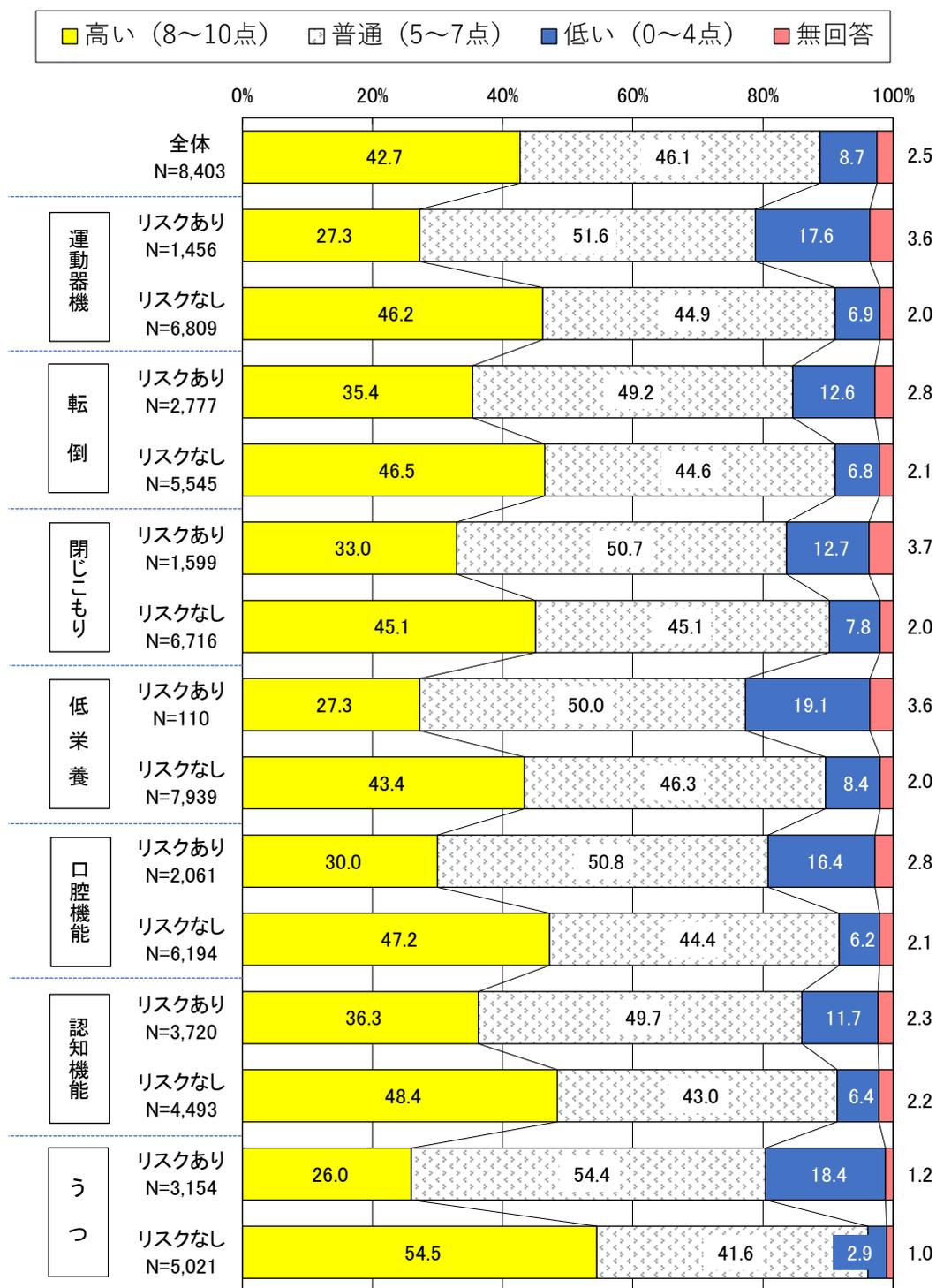


資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

カ 各リスクの有無と主観的幸福感との関係

これまで見てきた各リスクの有無別に主観的幸福感の状況を見ると、すべての分野について、リスクのある人に比べリスクのない人の方が、主観的幸福感が高い人の割合が高いという結果となっています。

図24 各リスクの有無別主観的幸福感



資料：倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(3) 社会参加の状況について

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の調査項目のうち、「6 地域での活動について」は、高齢者の社会参加の状況と地域活動への参加意向を把握するための設問です。

新しい介護予防・日常生活支援総合事業の展開にあたっては、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することにより、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援等を目指すこととなりますが、その前提として、高齢者の社会参加の状況と地域活動への参加意向を把握しておくことが必要となります。

そこで、社会参加等の状況については、国が設定したオプション項目も含めた8つの地域での活動(①ボランティアのグループ、②スポーツ関係のグループやクラブ、③趣味関係のグループ、④学習・教養サークル、⑤(ふれあいサロン・健康いきいきサロンなど)介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事)への参加状況と、地域づくりに対して「参加者として」「お世話役として」の両方の立場における参加の意向を分析しました。

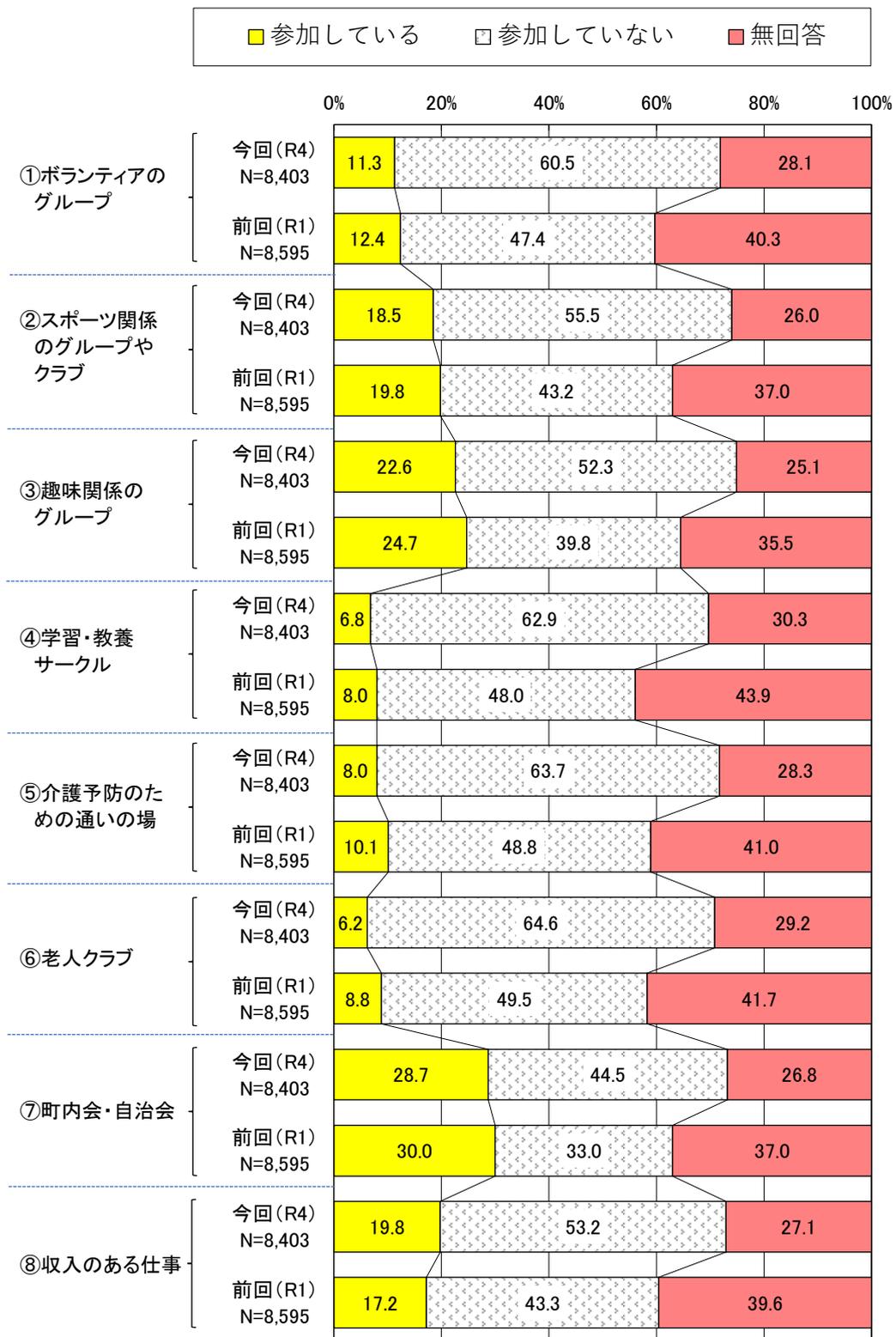
さらに本市では、地域包括ケアシステム構築に向け、介護予防につながる社会参加の場としての通いの場の充実を図ってきました。今回の調査では、そのことを踏まえ、通いの場に関する独自の設問項目を設け、通いの場をめぐる現状等をより正確に把握することを目指して、回答結果の分析を行いました。

ア 地域での活動への参加状況

地域での活動への参加状況を市全体で見ると、⑦町内会・自治会(28.7%)や③趣味関係のグループ(22.6%)への参加割合が比較的高くなっています。

また、令和元(2019)年の同調査時の結果と比較すると、⑧収入のある仕事以外の7項目は、いずれも参加している割合が低くなっています(P60 図25)。

図25 地域での活動への参加状況

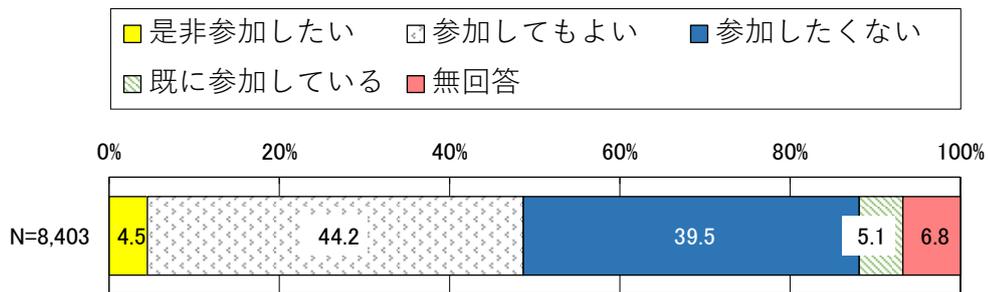


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

イ 地域づくりの場への参加意向

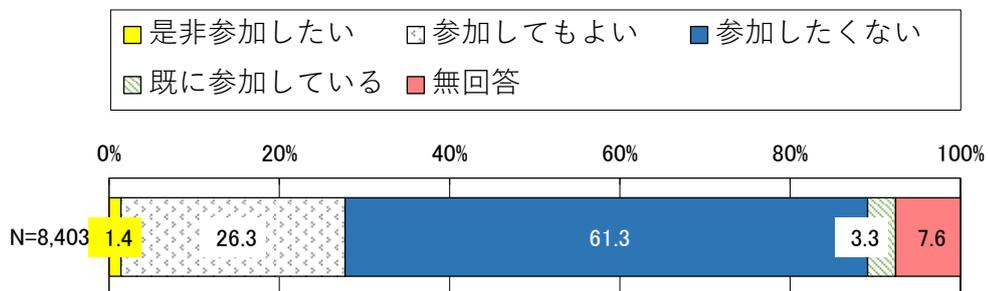
地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動など、地域づくりについて、参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」と回答した人の割合は48.7%(図26)、お世話役としての参加意向が27.7%(図27)と一定程度いるため、地域づくりに向けて行政として生活支援コーディネーターや関係機関と連携してこれらの層に働きかけていくことが重要です。

図26 地域づくりの場への参加者としての参加意向



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図27 地域づくりの場へのお世話役としての参加意向



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

ウ サロン等の“通いの場”の認知度・参加状況・参加希望

サロン等の“通いの場”が地域にあることを知っているという回答した人の割合は41.6%となっており(図28)、前回(令和元(2019)年度)調査結果39.9%に比べ1.7ポイント高くなっています。

また、サロン等の“通いの場”への参加率は8.8%となっており(図29)、前回(令和元(2019)年度)調査結果10.8%に比べ2.0ポイント低くなっています。

図28 サロン等の“通いの場”の認知度

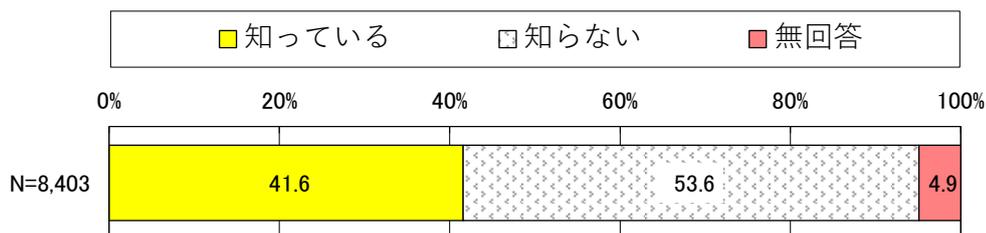
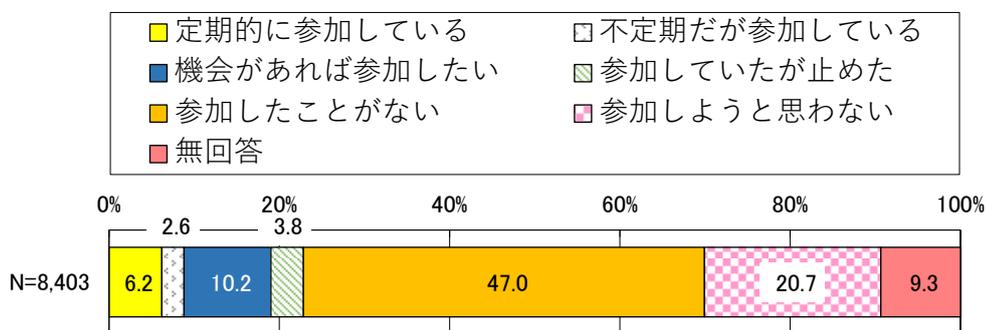


図29 サロン等の“通いの場”の参加状況・参加希望

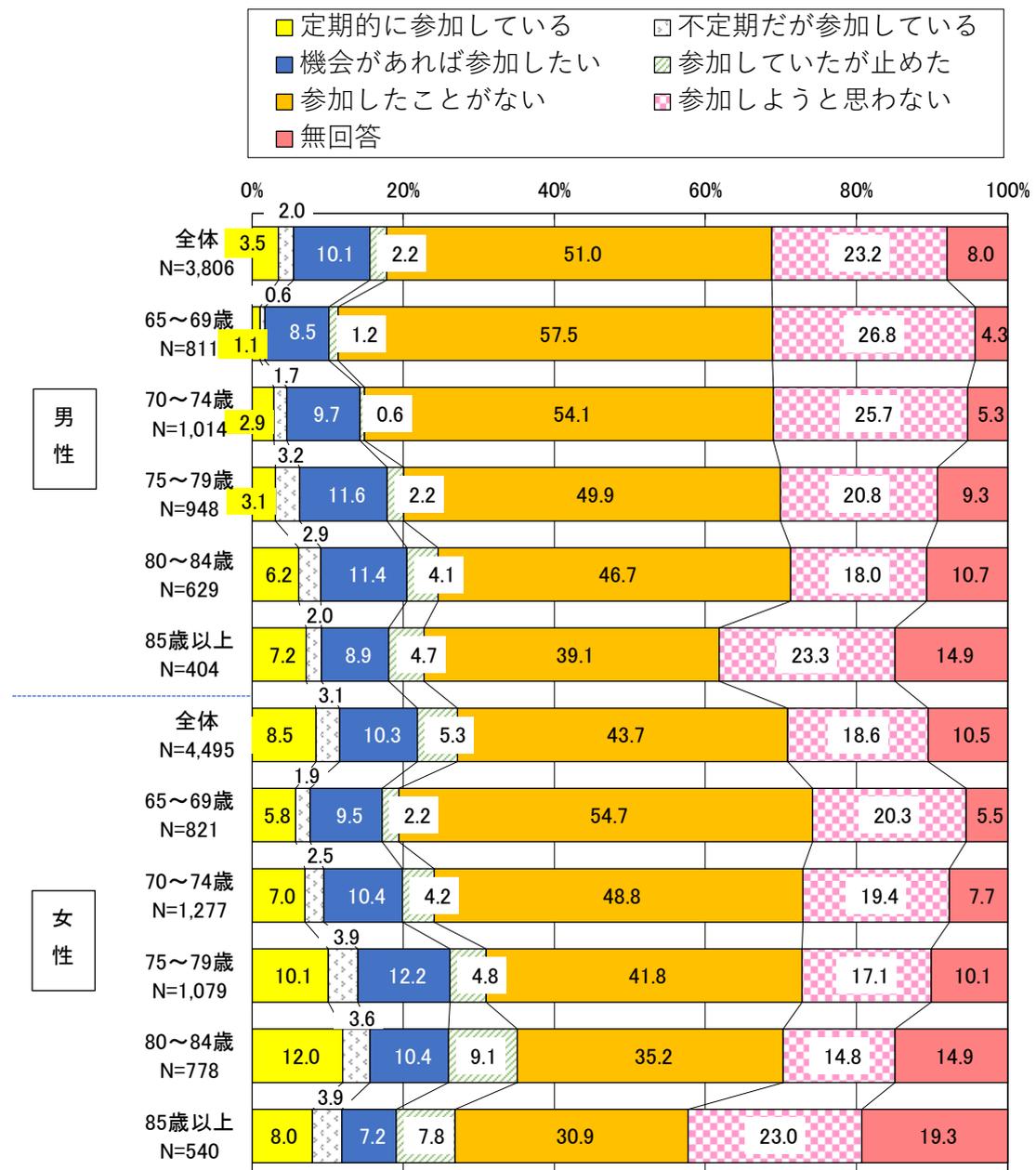


エ 男女・年齢階級別に見たサロン等の“通いの場”の参加状況・参加希望

男女・年齢階級別に“通いの場”への参加率を見ると、全体では男性(5.5%)に比べ女性(11.6%)の方が6.1ポイント高く、男性は「85歳以上」(9.2%)、女性は「80～84歳」(15.6%)が最も高くなっています。

また、機会があれば参加したいと思っている人は、男女とも「75～79歳」(男性11.6%、女性12.2%)が最も高い割合となっています。

図30 男女・年齢階級別サロン等の“通いの場”の参加状況・参加希望



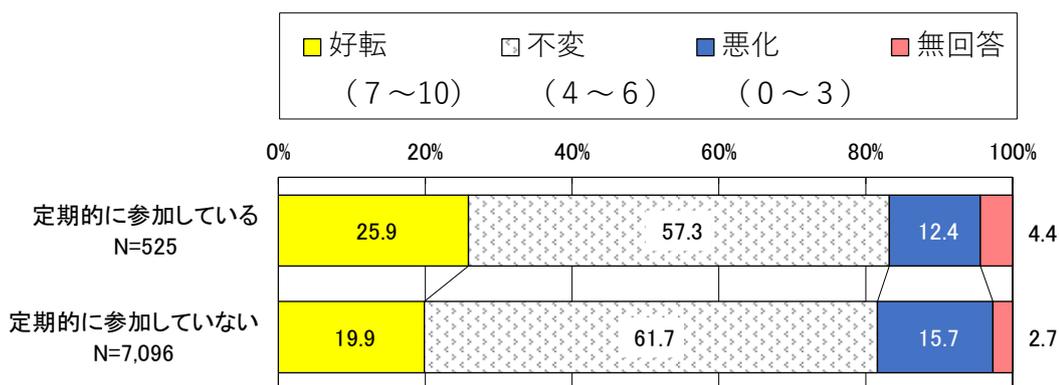
資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

オ “通いの場”への定期的な参加の有無と身体状態・生活状況等との関係

“通いの場”への定期的な参加の有無と3年前からの身体状態の変化との関係を見ると、定期的に参加している人の方が参加していない人に比べ、身体状態がよくなったと回答した人の割合が高くなっています(図31)。

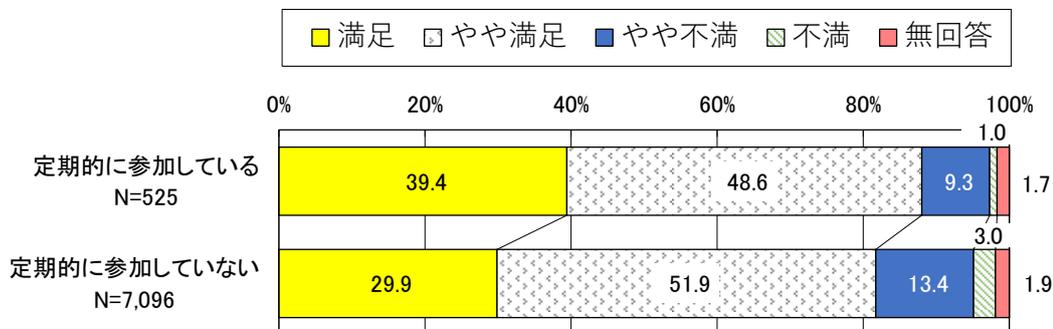
また、定期的に参加している人の方が参加していない人に比べ、生活の満足度や幸福度が高い人の割合が高くなっています(図32、33)。

図31 “通いの場”への定期的な参加の有無別3年前からの身体状態の変化



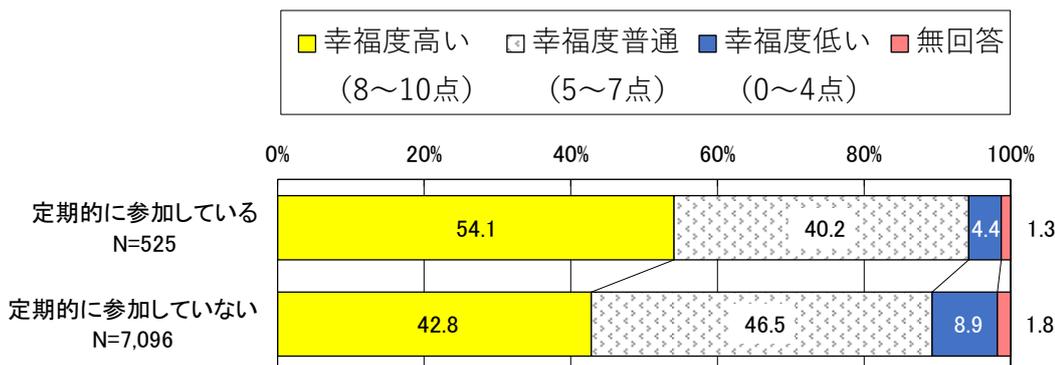
資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図32 “通いの場”への定期的な参加の有無別生活の満足度



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

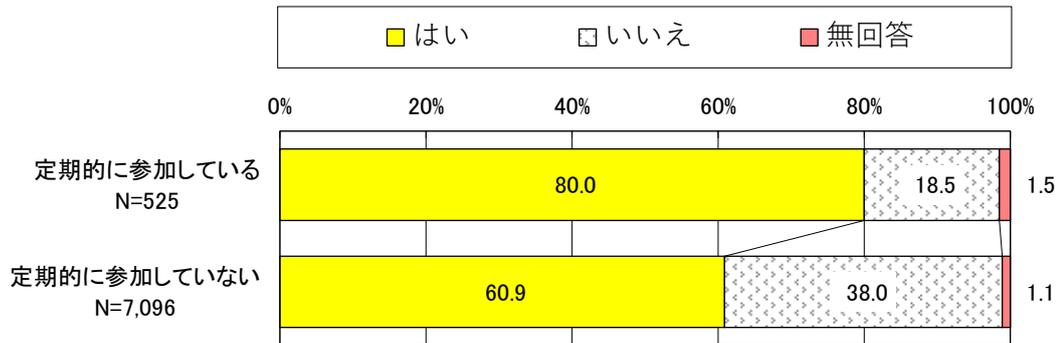
図33 “通いの場”への定期的な参加の有無別幸福度



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

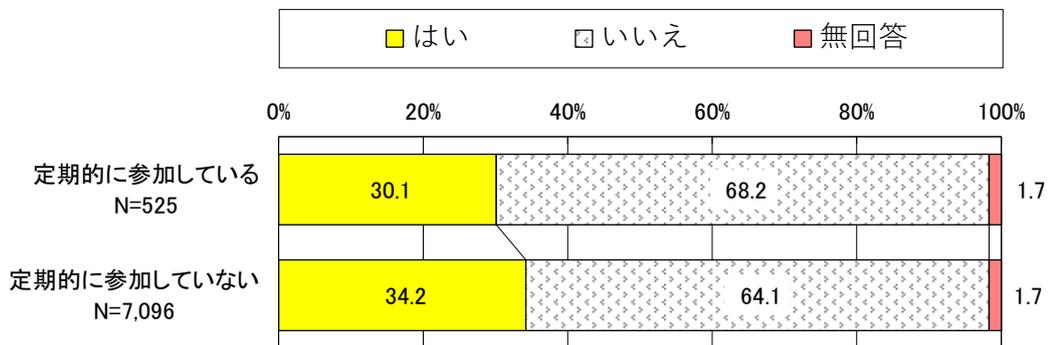
さらに、“通いの場”に定期的に参加している人の方が参加していない人に比べ、ウォーキング等の運動を週に1回以上している運動習慣のある人の割合が高く(図34)、うつ傾向が見られる人の割合は低いという結果になっています(図35、36)。

図34 ウォーキング等の運動を週に1回以上しているか
 (“通いの場”への定期的な参加の有無別クロス集計)



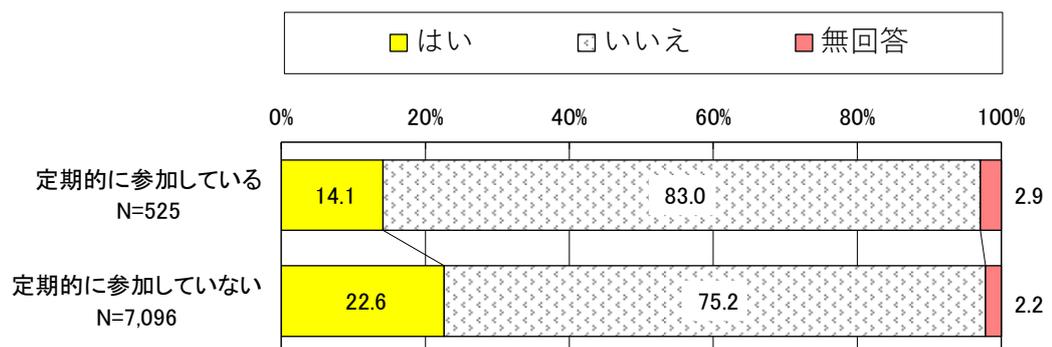
資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏ニーズ調査結果

図35 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか
 (“通いの場”への定期的な参加の有無別クロス集計)



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏ニーズ調査結果

図36 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか
 (“通いの場”への定期的な参加の有無別クロス集計)



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏ニーズ調査結果

カ ボランティア活動への参加状況等

何かボランティア活動をしていると回答した人の割合は15.0%、したいと思っているが、できていないと回答した人の割合は30.9%となっています(図37)。

また、ボランティア活動をしたいと思っているが、できていないと回答した人にその理由を尋ねたところ、一緒に活動する仲間がないという回答が25.6%、仕事等のため時間がないという回答が25.2%と、上位にあがっています(図38)。

図37 何かボランティア活動をしているか

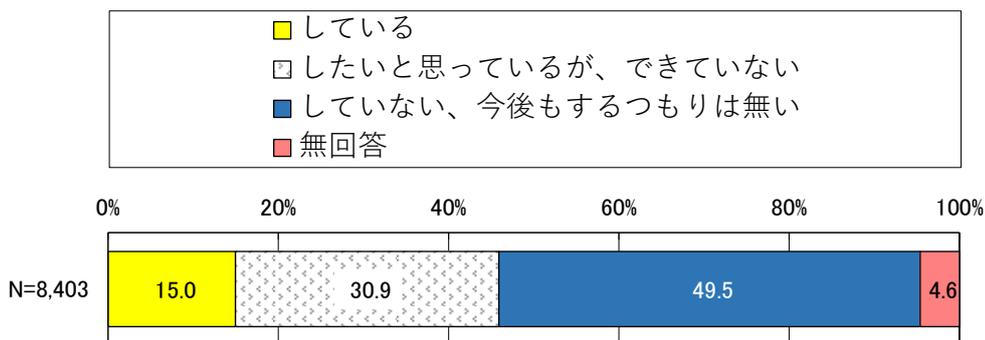
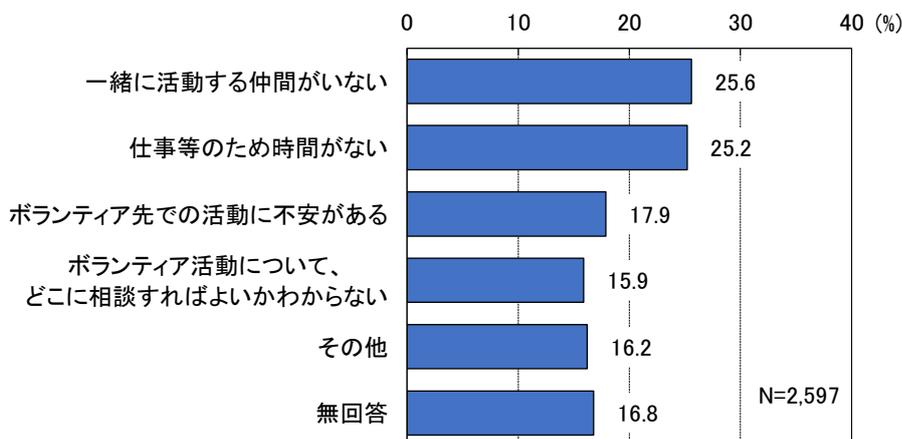


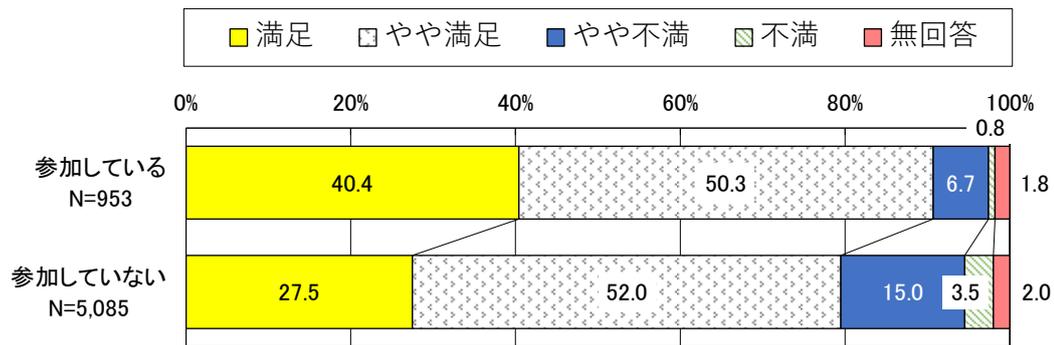
図38 ボランティア活動ができない理由(したいと思っているが、できていない人)(複数回答可)



キ ボランティア活動と生活の満足度・幸福度

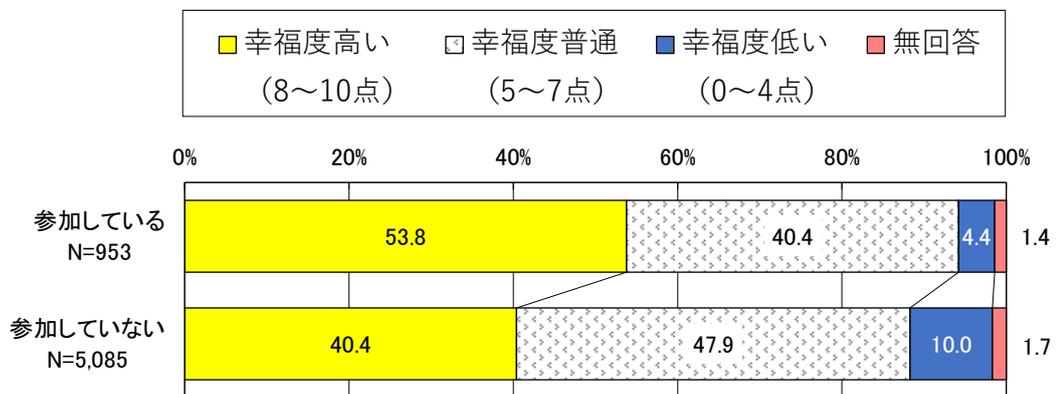
ボランティア活動への参加状況と生活の満足度や幸福度との関係を見ると、ボランティア活動に参加していると回答した人は、参加していないと回答した人に比べ生活の満足度・幸福度ともに高くなっています(図39、40)。ボランティア活動に参加することでやりがいや生きがいを感じ、それが生活の満足度や幸福度を高めることにつながるということがあがえます。

図39 ボランティア活動への参加の有無別生活の満足度



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

図40 ボランティア活動への参加の有無別幸福度

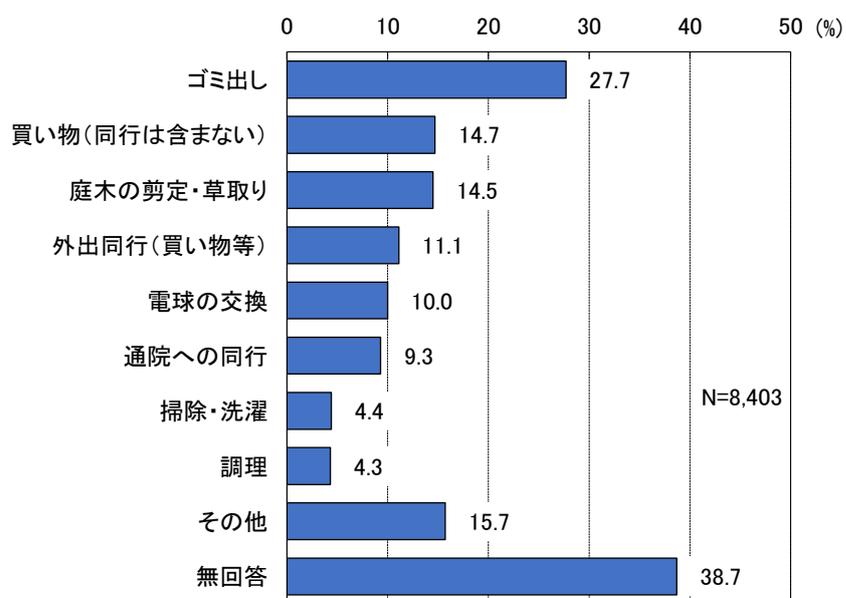


資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

ク 手助けできること

近所の高齢者の方の困りごとで手助けできる(有償も含めて)ことについて聞いたところ、「ゴミ出し」が27.7%と最も多く、以下、「買い物(同行は含まない)」(14.7%)、「庭木の剪定・草取り」(14.5%)、「外出同行(買い物等)」(11.1%)と続いています。

図41 近所の高齢者の方の困りごとで、手伝ってもよいと思う(有償も含めて)こと(複数回答可)



資料: 倉敷市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果